○ 基本計画の名称：第２期高岡市中心市街地活性化基本計画
○ 作成主体：富山県高岡市
○ 計画期間：平成２４年４月～平成２９年３月（計画期間５年）

１．中心市街地の活性化に関する基本的な方針

〔１〕　高岡市の概要

高岡市は、富山県北西部に位置し、人口約 18 万人を有する県内第２の都市であり、鉄道ではＪＲ北陸本線、氷見線、城端線、及び路面電車万葉線が、道路網では北陸の大動脈である国道８号と 156 号、160 号が交わる交通結節点に位置し、通勤・通学、商業など県西部の中核的な都市である。

歴史上、県内で最も古くから開拓された地域で、奈良時代には越中国府が置かれ、天平 18 年には万葉集の代表的歌人である大伴家持が国守として当地に赴任し、在任５年の間に二上山や雨晴海岸などの風光明媚を愛でて詠んだ 220 首余りの秀歌を万葉集に残している。

近世に入って加賀藩前田家２代目当主前田利長が関野ヶ原（現在の高岡台地）に築城し、城下町として現在の高岡市の基礎が築かれることとなった。利長の死後、一国一城令により高岡城は廃城となったが、３代目当主前田利常が商工業振興策を進め、武家のまちから商工業を中心とする町人のまちとして発展し、銅器、漆器、仏壇、仏具などの伝統産業を生み出した。また、県内唯一の国宝である瑞龍寺をはじめ、勝興寺、氣多神社、菅野家・武田家両住宅など数多くの重要文化財、前田利長墓所（国指定史跡）、高岡鋳物の製作用具及び製品（登録有形民俗文化財）、山町筋（重要伝統的建造物群保存地区）、高岡古城公園［高岡城跡］（富山県指定史跡）など県内でも有数の歴史的・文化的資産が集積している。

明治以降は伏木港の発展とともに重化学工業、木材・紙・パルプなどの工業集積が形成され、戦後になると伝統的な高岡の金属工業はアルミ産業へと発展し、全国有数の一大産地を形成するなど、高岡市は日本海側有数の産業都市として発展し、現在に至っている。

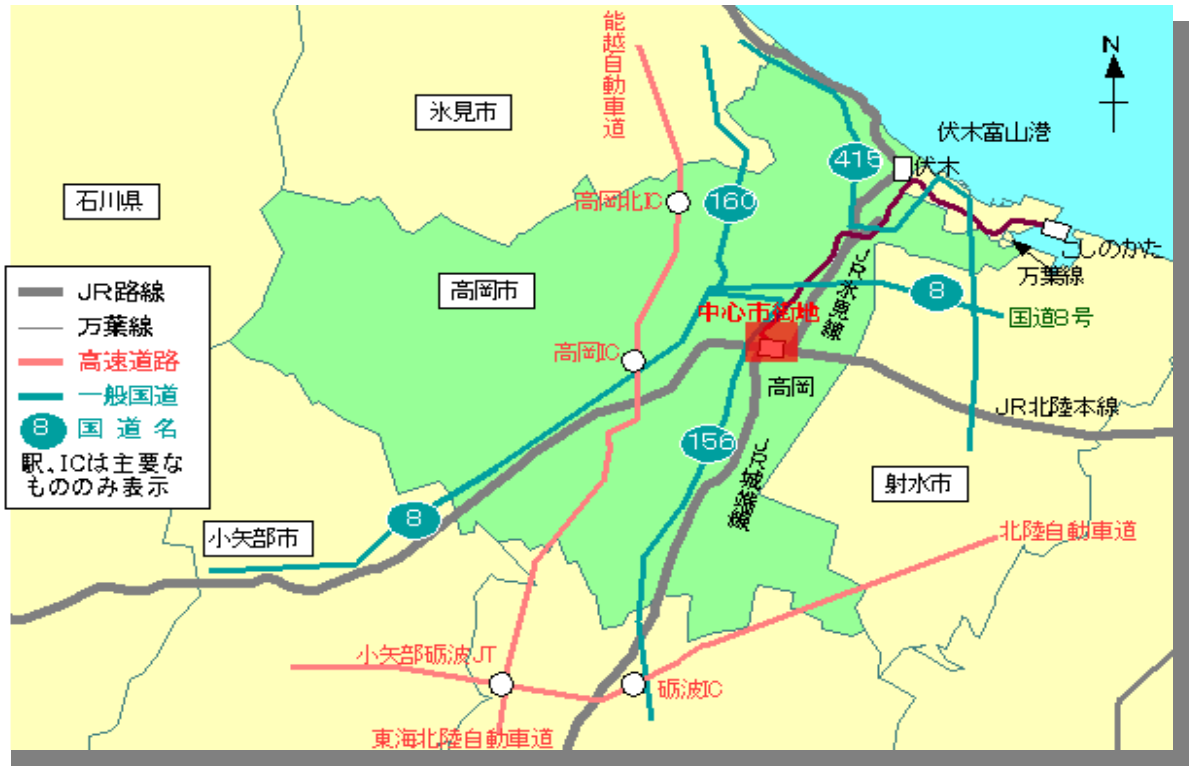
〔２〕　高岡市中心市街地の状況

（１）位置

高岡市の中心市街地は、ＪＲ高岡駅を中心とする一帯の市街地である。

歴史・文化を受け継ぐとともに産業、行政の様々な都市機能を担い、まさに「高岡の顔」として発展してきた地域である。

位　　置　　図



（２）中心市街地の特徴と有効活用の方法の検討

①歴史・文化資産

高岡は、慶長 14 年（1609）、加賀藩前田家２代目当主前田利長の隠居場所として高岡城が築城され、城下町として町立てられたところに起源をもつ。城に続く台地上に馬場や武家屋敷が置かれ、台地下には商人町が配置されるとともに、千保川沿いに開かれた金屋町では招致された鋳物師による職人町が形成され、高岡市の原形が形づくられることとなった。

本市中心市街地は、いわば近世高岡発祥の地、高岡市の原点としての性格を有している。

このように近世における町の発展が明治以降も続き、商工業の発達とともに近代から現在に至る町並みが形成されてきた。

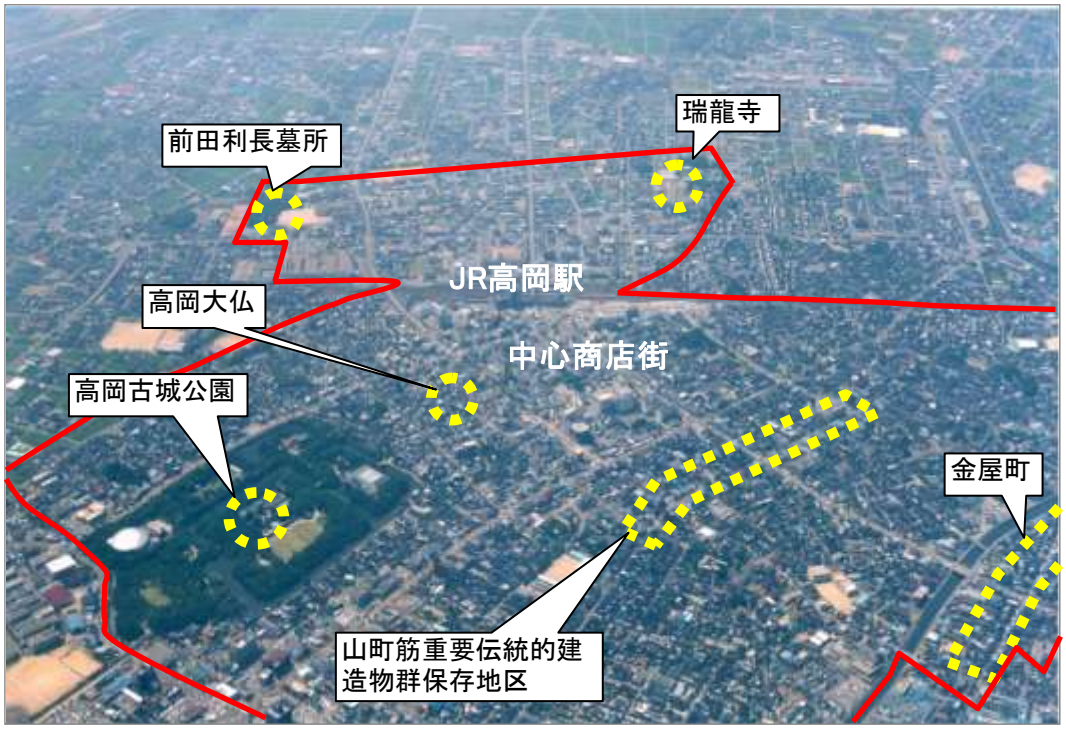
また、戦災の影響がなかったことから、現在でも中心市街地には、瑞龍寺（国宝）、山町筋（重要伝統的建造物群保存地区）、高岡古城公園［高岡城跡］（県指定文化財）や高岡御車山祭（重要有形・無形民俗文化財）といった伝統行事など数多くの歴史・文化資産が集積しており、富山県内で他に類を見ない状況である。

国指定文化財・国登録有形文化財等の状況

	国宝	重要文化財	重要伝統的建造物群保存地区	登録有形文化財
中心市街地内	**1**	**7**	**1**	**13**
その他高岡市内	0	12	0	19
高岡市　計	1	19	1	32
(県内順位)	(1)	(2)	(2)	(2)
富山県　合計	1	95	3	91
中心市街地／高岡市	100%	36.8%	100%	40.6%
中心市街地／富山県	100%	7.4%	33.3%	14.3%

出典：
富山県文化財・文化施設等一覧
（H23.3.31 現在）

中心市街地における歴史・文化資産の分布状況



これらの歴史・文化資産は、中心市街地内の主要観光拠点として、年間約 120 万人の観光客が訪れ、高岡市における観光交流拠点として重要な役割を担っている。

これらの歴史・文化資産を磨き、魅力を高めるとともに、まちなかを回遊する取り組みを進める必要がある。

とりわけ、平成 23 年 6 月に国の認定を受けた高岡市歴史的風致維持向上計画と一体となった、中心市街地活性化の取り組みが重要である。

瑞　龍　寺
［国宝 3 棟、重要文化財 7 棟他］

高岡御車山祭
［重要有形・無形民俗文化財］

高岡古城公園（高岡城跡）
［県指定文化財］

②社会資本など

高岡市は非戦災都市であることから、前述した歴史・文化資産のみならず、字名や条里など、中心市街地には開町時の町立ての雰囲気が色濃く残っている。

本市では、都市基盤の充実を図るため、中心市街地において様々な社会資本の整備に取り組んできた。特に、市民会館、市立博物館、市民体育館の設置をはじめ、ウイング・ウイング高岡（市立中央図書館、生涯学習センターなどが入居）などに代表される再開発事業を行い、多くの公共・公益施設が集積する拠点としての性格を確立するに至っている。

また、市全体の発展に伴って高岡駅北側の末広町、御旅屋通り、高の宮通り、末広坂の４つの商店街が形成され、長年にわたり中心的な商店街として位置づけられてきた。そのクロスポイントに位置する御旅屋セリオ〔核店舗：大和高岡店（呉西地域唯一の百貨店)〕とともに、高岡の商業を代表するエリアとなっている。

さらには、公共交通の拠点として、ＪＲ高岡駅、万葉線、バスターミナルが立地するとともに、平成 23 年８月にＪＲ高岡駅の橋上駅舎化、南北自由通路[通称：万葉ロード]が、供用開始されたことによって、鉄道によって分断されていた駅南北が地上で連結されることとなった。今後、交通広場、北口駅前広場、ステーションビルのリニューアル等の整備が進められることにより、拠点機能がさらに高まり、中心市街地を交流拠点として、市民のみならず周辺都市をも含めた人の流れが活発化し、富山県西部地域全体の発展に寄与することが期待されている。

このような都市基盤と多様な都市機能が集積し、ストックされてきた中心市街地において、これらの既存ストックを活かしつつ、中心商店街と連携を図り、また、まちづくり会社やたかまち街づくり協議会といった多様なまちづくり機関の活動を助長しながら様々な施策・事業に取り組むことは、高岡らしい賑わいと活力に溢れたまちなかを創出するものであり、中心市街地の活性化にとって有効な取り組みである。

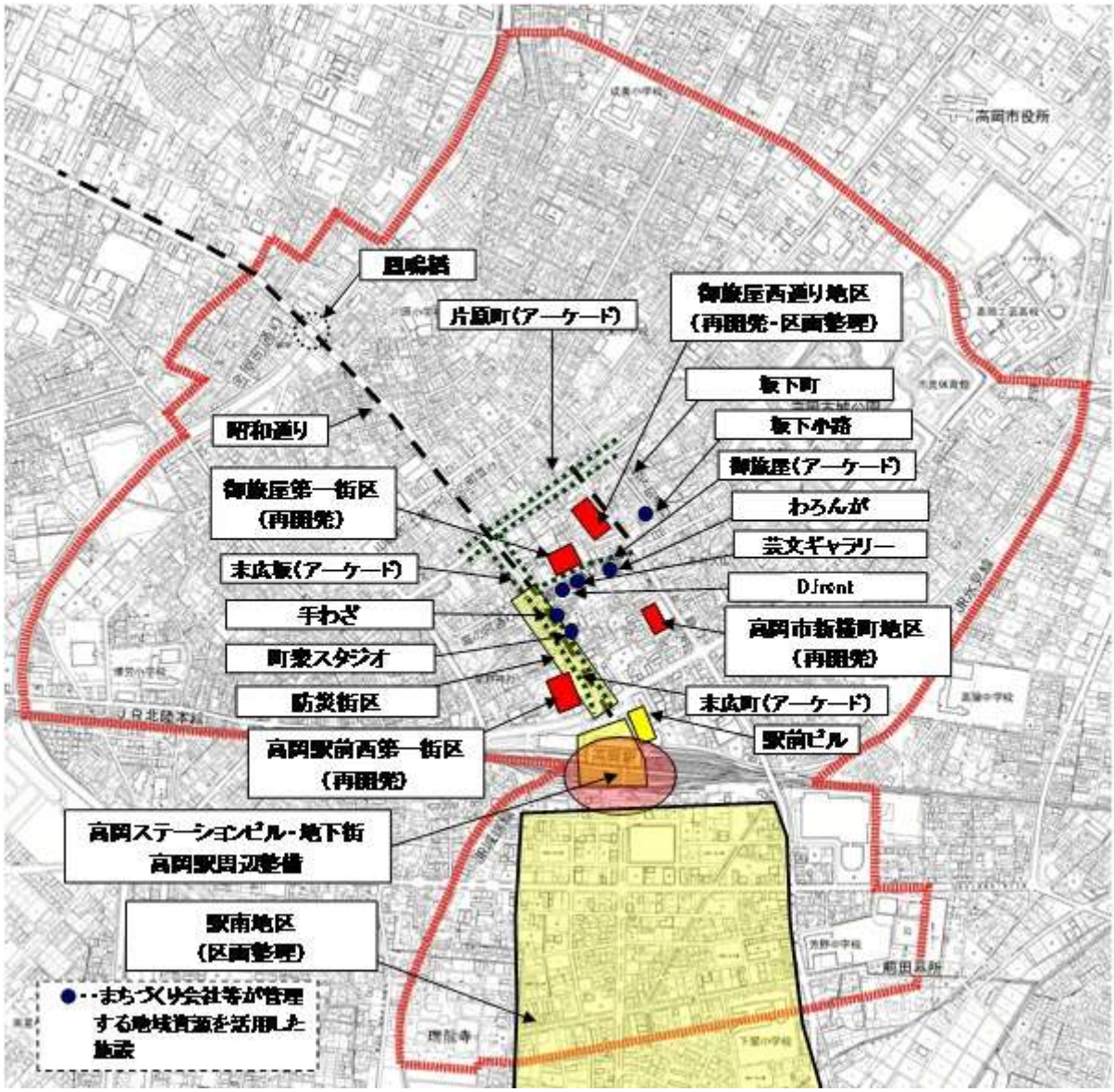
御旅屋第一街区市街地再開発事業
［御旅屋セリオ（大和高岡店など）］

駅前西第一街区市街地再開発事業
［ウイング・ウイング高岡］

南北自由通路
［通称：万葉ロード］

高岡駅周辺整備計画（模型）

主な社会資本整備等の分布状況



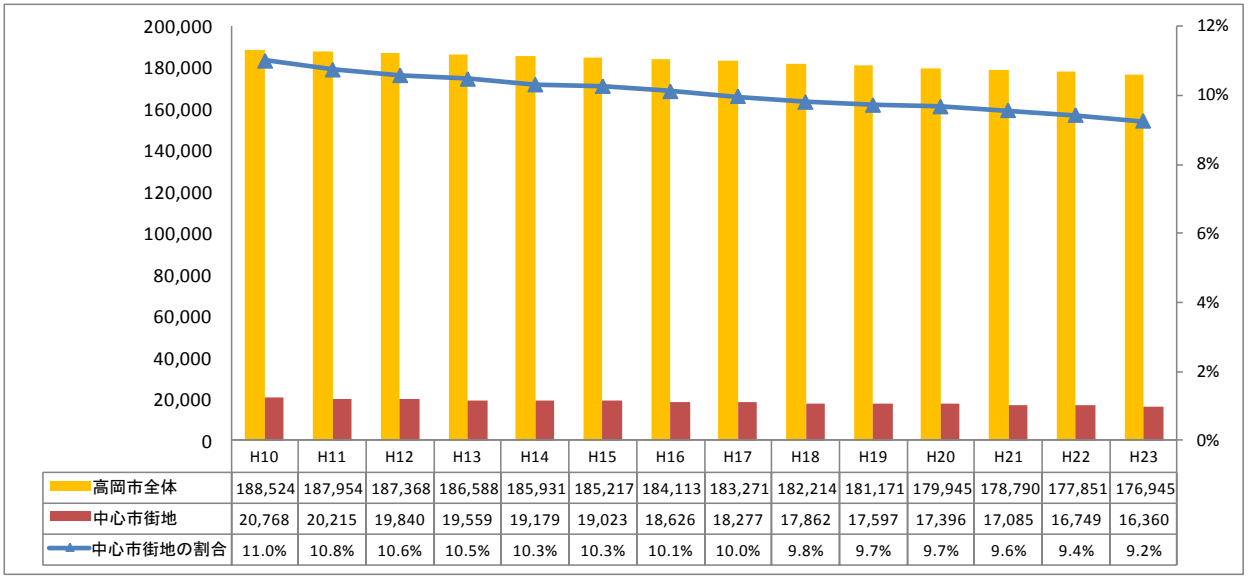
（３）データから見た中心市街地の現状

① 人口・世帯数の状況

高岡市全体が人口減少する中、中心市街地の人口は市全体を上回るペースでの減少が続いており、全市に対する中心市街地の人口割合は、１期計画がスタートした平成 19 年時点と比較しても 0.5 ポイント低下の 9.2%となった。

中心市街地の世帯数については、平成 19 年と比較して 1.6%の減少となっており、一世帯あたりの人員数も 2.5 人から 2.4 人へ減少している。高岡市全体の 2.8 人と比較して１世帯当たりの人員数が少なく、核家族化、単独世帯化が進んでいることがわかる。

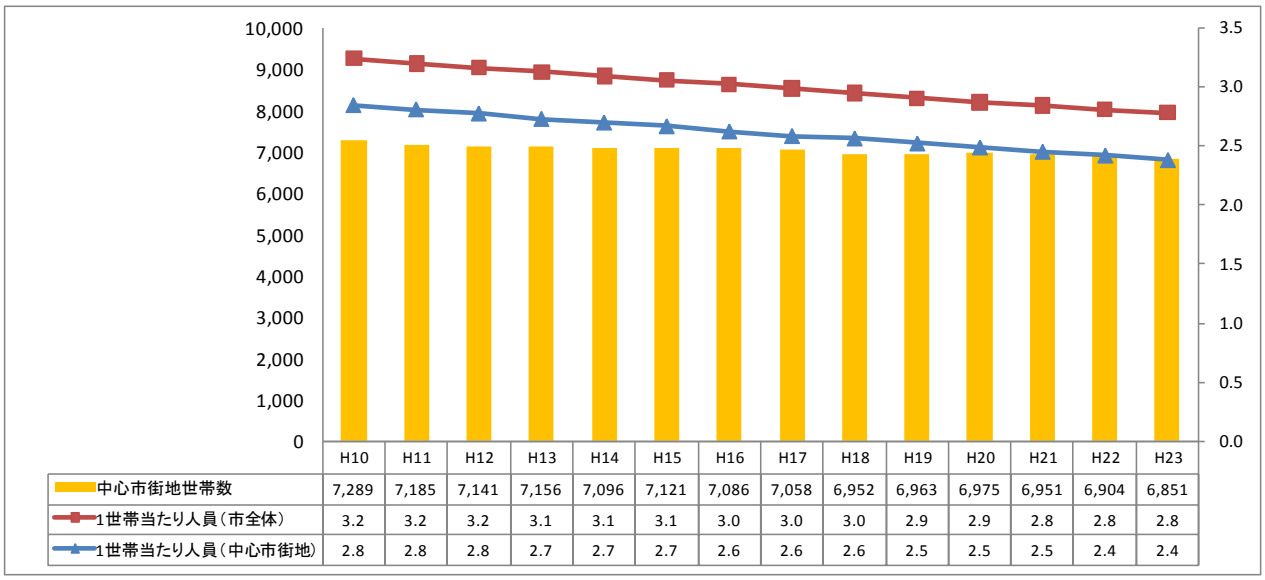
中心市街地の人口推移



	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
高岡市全体	188,524	187,954	187,368	186,588	185,931	185,217	184,113	183,271	182,214	181,171	179,945	178,790	177,851	176,945
中心市街地	20,768	20,215	19,840	19,559	19,179	19,023	18,626	18,277	17,862	17,597	17,396	17,085	16,749	16,360
中心市街地の割合	11.0%	10.8%	10.6%	10.5%	10.3%	10.3%	10.1%	10.0%	9.8%	9.7%	9.7%	9.6%	9.4%	9.2%

出典：住民基本台帳（各年 3.31 現在）　平成 17 年までは旧高岡市と旧福岡町の合計

中心市街地の世帯推移



	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
中心市街地世帯数	7,289	7,185	7,141	7,156	7,096	7,121	7,086	7,058	6,952	6,963	6,975	6,951	6,904	6,851
1世帯当たり人員（市全体）	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	2.9	2.8	2.8	2.8
1世帯当たり人員（中心市街地）	2.8	2.8	2.8	2.7	2.7	2.7	2.6	2.6	2.6	2.5	2.5	2.5	2.4	2.4

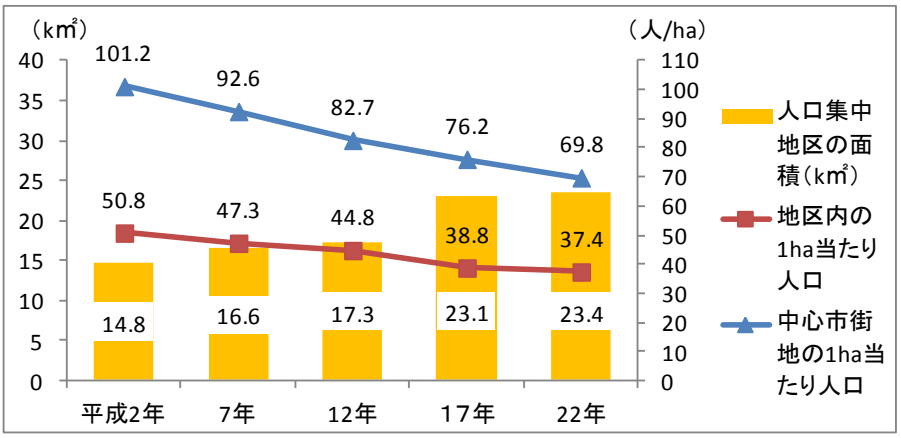
出典：住民基本台帳　（各年 3.31 現在）　平成 17 年までは旧高岡市と旧福岡町の合計

②人口密度

郊外居住の進展により、高岡市のＤＩＤ（人口集中地区）面積は平成２年の 14.8 ㎢から平成 22 年には 23.4 ㎢に拡大した。特に、平成 12～17 の５年間でＤＩＤ面積は 1.3 倍となり市街地の拡大が進んだ。その一方で、ＤＩＤ面積１ha 当りの人口密度は平成２年の 50.8 人から平成 17 年には 38.8 人に低下し、平成 17 年以降は市街地拡散のペースが大幅に鈍化したものの、ＤＩＤ面積１ha 当りの人口密度は 37.4 人となり、人口密度は低下を続けている。

中心市街地の人口密度も、平成 17～22 年の５年間で 6.4 ポイント低下しており人口密度の低下が進んでいる。

高岡市のＤＩＤ面積、ＤＩＤ人口密度、中心市街地の人口密度



出典：総務省「国勢調査」、中心市街地人口は住民基本台帳による

③住宅の状況

富山県の持ち家比率は全国１位であり、持ち家に対する意識の高い地域である。

また、一人あたりの住宅延べ床面積も、持ち家比率と同様、全国１位である。

これらのことから、県民性として、「広くて大きな家を持ちたい」という意識が強いことが伺われ、県内における人口移動には、住宅の取得が大きく影響を与えているものと推察される。

富山県西部地域における 1,000 世帯当たりの新設住宅戸数をみると、上述のような志向を反映し、地価が比較的安く、まとまった土地が確保しやすい砺波市や射水市において新規の住宅着工が進んだことがわかる。

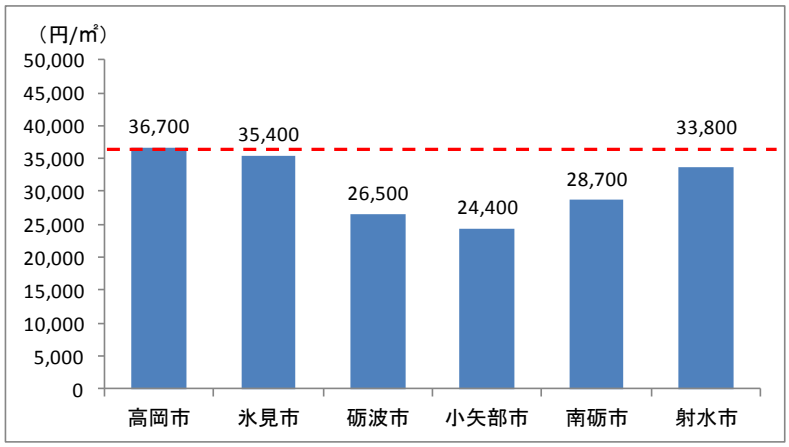
高岡市の 1,000 世帯当たり新設住宅戸数は、平成 12 年度、18 年度を除き、ほぼ年間 15 戸前後で推移し、市全体の人口は漸減傾向にある。そうしたトレンドの中、中心市街地については、全市を上回るペースで人口減少が進んでいること、空き家化、平面駐車場化が進んでいることを考慮すれば、郊外部あるいは他市への流出が続いていると推察される。

富山県内各市における持ち家比率

順位		持ち家比率（%）
1	氷見市	91.9
2	南砺市	89.5
3	小矢部市	88.3
4	滑川市	84.4
5	黒部市	84.1
6	射水市	81.9
7	砺波市	80.5
8	魚津市	79.1
9	高岡市	78.6
10	富山市	70.8
	富山県	78.3

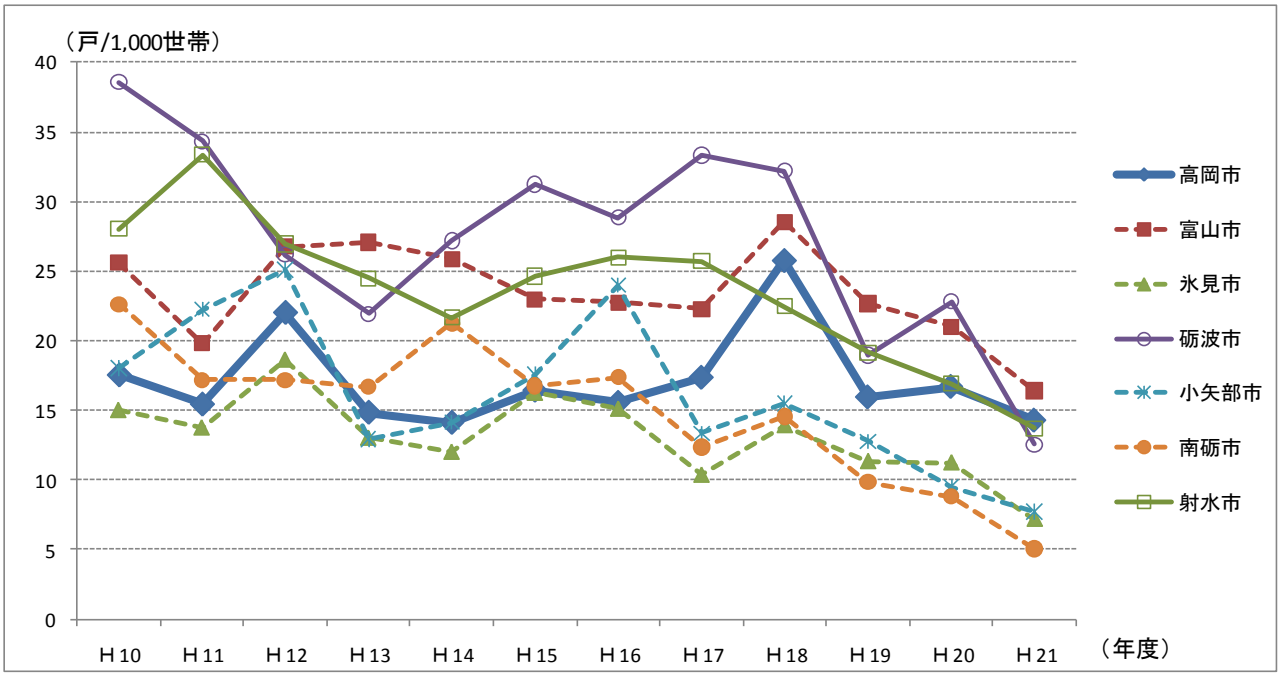
出典：H22 国勢調査
網掛けは富山県西部の都市

富山県西部各市における住宅地平均価格（平成 23 年）



出典：国土交通省地価公示

1,000 世帯当たり新設住宅戸数の推移



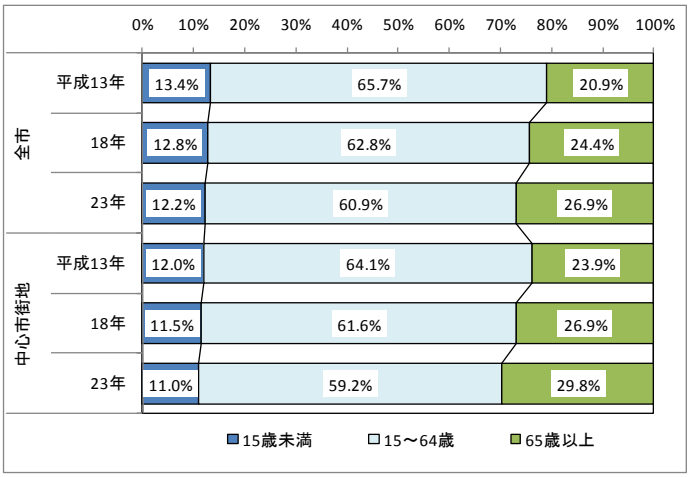
出典：国土交通省「建築統計年報」、総務省「住民基本台帳人口要覧」により作成

④少子高齢化の状況

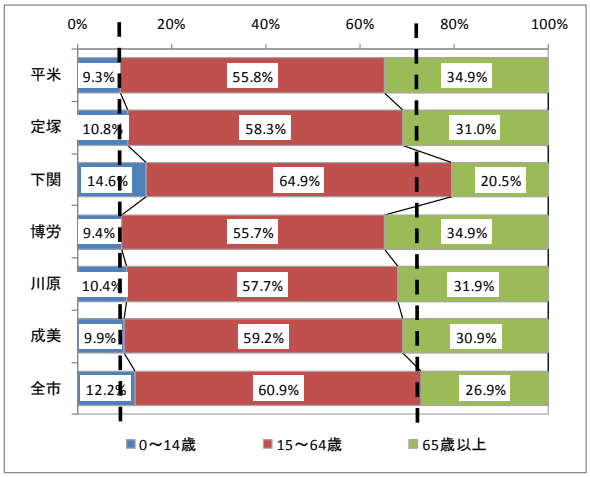
年齢３区分による変化を見てみると、全市、中心市街地ともに年少人口の割合が低下する一方で 65 歳以上人口の割合は上昇しており、全市的に少子高齢化が進展している。

中心市街地の 65 歳以上人口の割合は、全体としてみると全市平均の 26.9%よりも 3 ポイント程度高い 29.8%になっている。特に、近年宅地開発が進んだ下関地区を除く地域ではこの割合が高くなっており、高齢化の進展がみられる。

年齢３区分による人口構成及び推移



中心市街地内の地区別年齢構成



出典：住民基本台帳（各年３月 31 日現在）平成 13 年の「全市」は旧高岡市

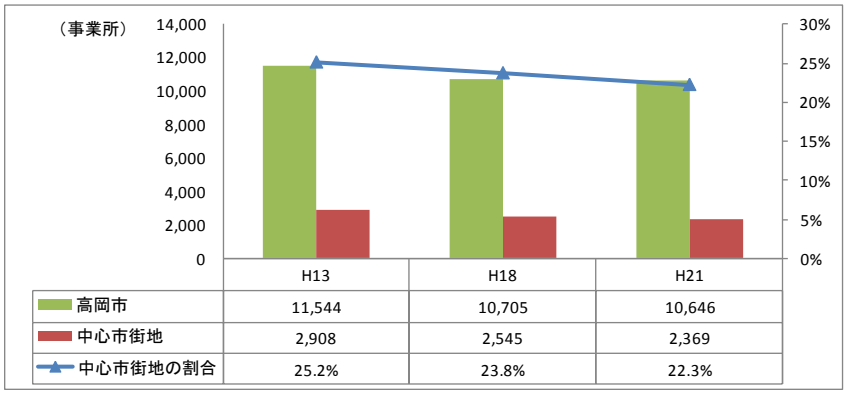
（注）中心市街地（６地区）の割合は、町丁字による年齢別人口を抽出できないことから、中心市街地におおむね含まれる平米、定塚、下関、博労（木津除く）、川原、成美の６地区の人口から算出

⑤事業所・従業者数（全業種）の状況

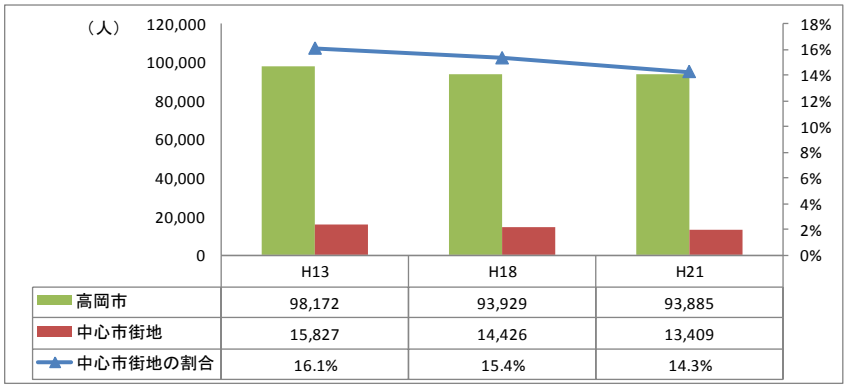
中心市街地における事業所数・従業者数（全業種）は、減少が続いているものの、平成 18 年からは減少数が少なくなっている。

全市における中心市街地のシェアをみると、事業所数、従業者数（全業種）とも引き続き低下しており、中心市街地への集積度が低下していることがわかる。

中心市街地における事業所数（全業種）の推移



中心市街地における従業者数（全業種）の推移



出典：総務省「事業所・企業統計調査」および「経済センサス基礎調査」

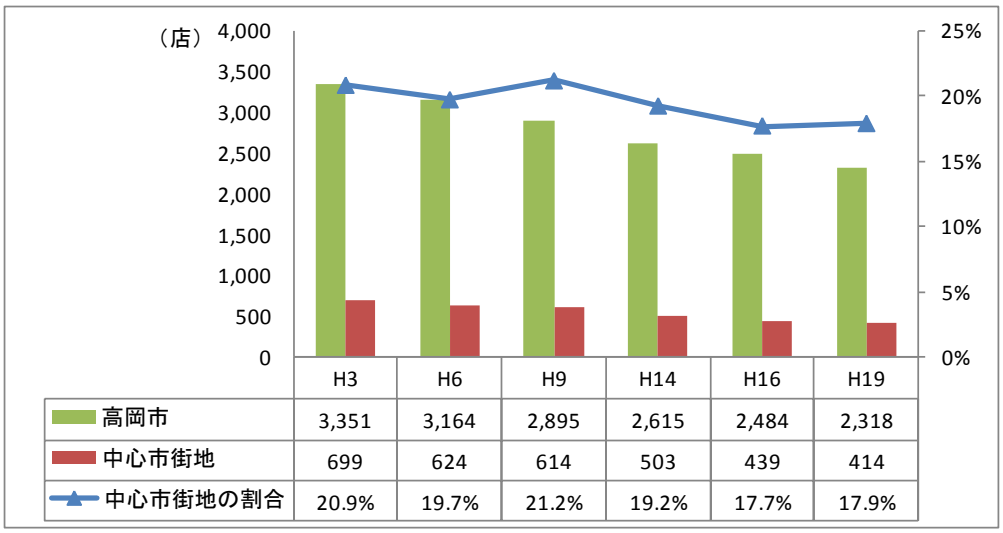
（注 1）中心市街地の数値は、中心市街地内に属する全町丁の合計

（注 2）平成 13 年の高岡市は、旧高岡市と旧福岡町の合計

⑥商店数（小売業）の状況

商店数は、高岡市全体、中心市街地（商業集積の合計）ともに長期的に減少が続いていたが、平成 19 年商業統計において中心市街地（商業集積の合計）では下げ止まる傾向を見せ、全市に占める中心市街地のシェアは 17.9%となっている。

中心市街地における小売業商店数の推移



	H3	H6	H9	H14	H16	H19
高岡市	3,351	3,164	2,895	2,615	2,484	2,318
中心市街地	699	624	614	503	439	414
中心市街地の割合	20.9%	19.7%	21.2%	19.2%	17.7%	17.9%

出典：経済産業省「商業統計」（立地環境特性別集計）

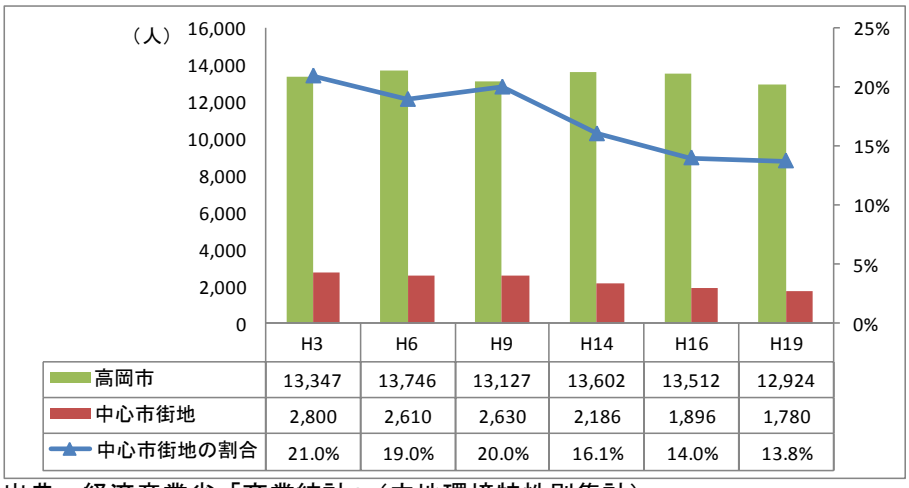
（注）中心市街地内に立地する、坂下町・大仏前通り商店街、ステーションビル商店街、末広町・恵比須通り商店街、末広坂商店街、片原町商栄会、えんじゅ通り商店街、御旅屋通り商店街、中央通り商店街、高の宮通り商店街（昭和 45 年～平成 21 年）、駅南商店街、旅籠町商店街（昭和 57 年～）、鴨島商店街（昭和 57 年～）、成美商店街（昭和 63 年～）、駅前商店街（昭和 57 年～平成 9 年）、桐木町商店街（昭和 57 年～平成 9 年）の合計で、当該集積内に立地する御旅屋セリオ、高岡サティ（平成 21 年閉店）、クレビ、ダイエー高岡店（平成 9 年閉店）、ユニー高岡店（平成 6 年閉店）、ミズの街（昭和 63 年閉店）を含む数値。なお、平成 16 年までの「高岡市」は旧高岡市と旧福岡町の合計。

⑦従業者数（小売業）の状況

小売業従業者数についても、高岡市全体、中心市街地（商業集積の合計）ともに減少が続いている。

中心市街地（商業集積の合計）については、平成５年 10 月の高岡サティ開店、平成６年３月の御旅屋セリオ開店により、平成９年に全市に占めるシェアは増加したものの、その後再び減少するに至り、平成19年には、全市に占めるシェアは13.8%となっている。

中心市街地における小売業従業者数の推移



	H3	H6	H9	H14	H16	H19
高岡市	13,347	13,746	13,127	13,602	13,512	12,924
中心市街地	2,800	2,610	2,630	2,186	1,896	1,780
中心市街地の割合	21.0%	19.0%	20.0%	16.1%	14.0%	13.8%

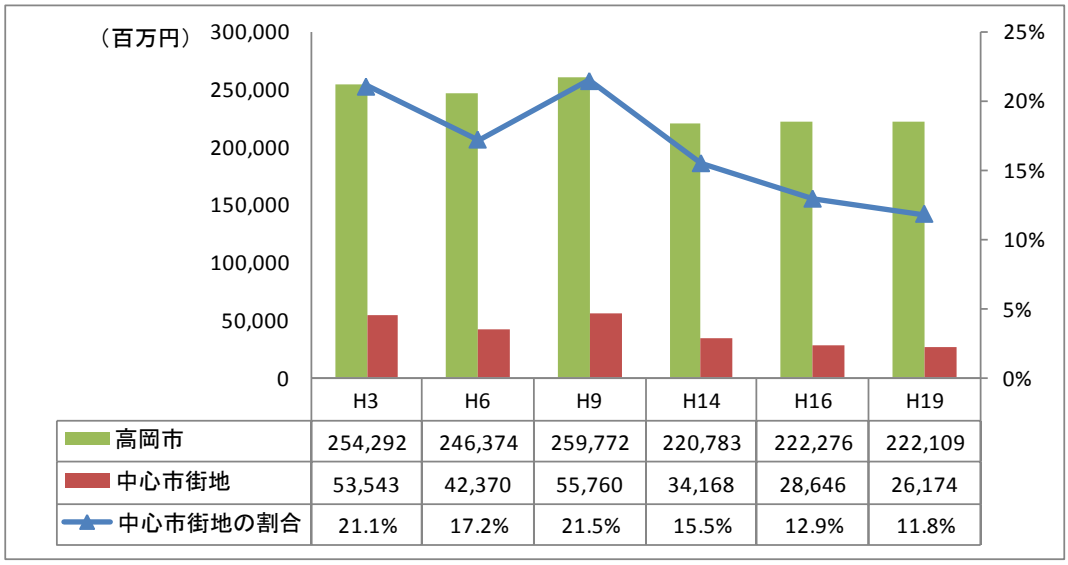
出典：経済産業省「商業統計」（立地環境特性別集計）

⑧年間商品販売額の状況

年間商品販売額は、ここ数年高岡市全体が横這い傾向にある中、郊外型店舗への購買流出が進んだことから、中心市街地では連続減少しており、全市に占める中心市街地のシェアは 11.8%にまで低下、商店数および従業者数の落ち込み割合と比較して減少幅がより大きなものとなっている。

中心市街地の商店数、従業者数の減少ペースが鈍化する中で、販売額が大きく減少していることから、中心市街地に立地する商店の経営状況は悪化していると推察される。

中心市街地における小売業年間販売額の推移



	H3	H6	H9	H14	H16	H19
高岡市	254,292	246,374	259,772	220,783	222,276	222,109
中心市街地	53,543	42,370	55,760	34,168	28,646	26,174
中心市街地の割合	21.1%	17.2%	21.5%	15.5%	12.9%	11.8%

出典：経済産業省「商業統計」（立地環境特性別集計）

⑨大規模小売店舗の状況

平成 23 年 4 月 1 日時点で高岡市内に 43 の大規模小売店舗が立地しており、このうち 6 店舗は 1 期計画策定後に開店している。これらの大規模小売店舗の売場面積合計は 194,493 ㎡で、平成 19 年の商業統計調査における高岡市内の小売業の売場面積（334,574 ㎡）に対して 58%の水準となっており、大規模小売店舗の存在が高岡市商業全体に大きなウェートを占めていることがわかる。

このうち、中心市街地内に立地するものは、御旅屋セリオ、高岡ステーションビル、クレビの 3 施設である。クレビについては展示場ないしはホテルの機能の一部として使用されていることや、高岡ステーションビルは改築のため一旦閉鎖されるため、中心市街地内で営業している大規模小売店舗は御旅屋セリオのみになることから、中心市街地の吸引力の低下が懸念される。

但し、平成 23 年 11 月に、高岡サティ跡地にホームセンターおよび食品スーパーが開店したほか、平成 26 年春には、新しいステーションビルが完成することなどから、中心市街地における商業機能および吸引力の向上が期待されている。

高岡市における大規模小売店舗の状況

	店舗名	開店日	売場面積（㎡）		店舗名	開店日	売場面積（㎡）
1	イオンモール高岡	H14.9.19	54,200	11	バロー高岡木津店	H17.4.28	3,982
2	御旅屋セリオ	H6.3.1	19,877	12	アルビス米島店	H19.6.1	3,900
3	イオン高岡ショッピングセンター	S58.7.27	11,996	13	ヤマダ電機テックランド高岡店	H12.8.11	3,600
4	ホームセンタームサシ高岡店	H22.10.12	6,873	14	カーマホームセンター高岡六家店	H6.12.1	3,518
5	カーマホームセンター高岡野村店	H6.4.29	5,489	15	高岡市新横町第1種再開発事業「クレビ」	S61.10.1	3,367
6	ニトリ高岡店	H19.4.20	5,271	16	アルペン高岡店	H10.9.10	3,281
7	上島リビング	S52.5.1	5,066	17	福岡ショッピングセンタータピス	H2.12.8	3,236
8	グリーンモール中曽根	H20.11.20	4,945		第2種大規模小売店舗　26施設		47,103
9	バローショッピングセンター高岡万葉店	H11.11.18	4,738				
10	ひらせいスーパーセンター高岡内島店	H19.6.13	4,051				
					合計　43施設		194,493

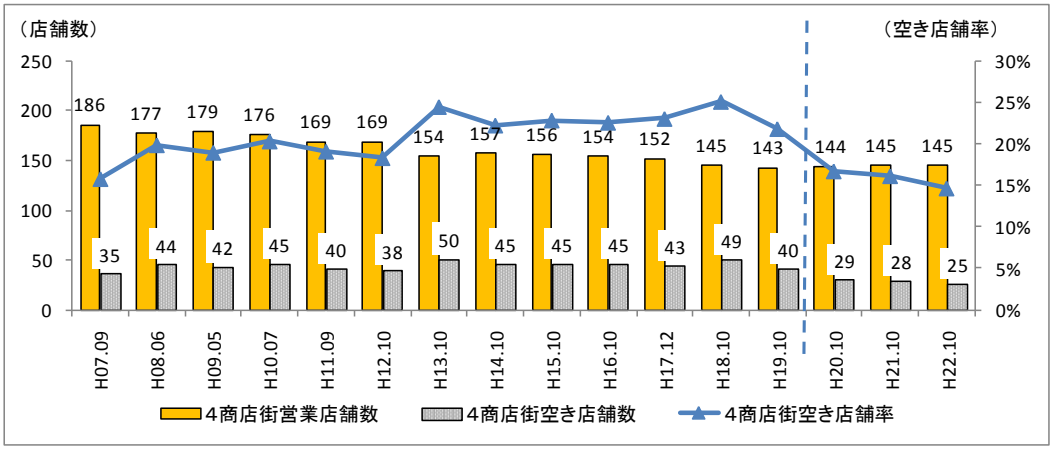
出典：富山県商業まちづくり課　大規模小売店舗の概要（平成 23 年４月１日現在）

⑩中心商店街（４商店街）の空き店舗率・空き店舗数

中心商店街（４商店街）における空き店舗率・空き店舗数は長期間にわたって増加傾向にあったが、１期計画実施後は空き店舗数、空き店舗率とも改善をみた。

但し、空き店舗減少は開業支援事業の実施による営業店舗化促進によるところが大きいが、店舗の完全廃業に伴う一般住宅化、青空駐車場化による側面もある。

中心商店街（４商店街）における空き店舗の状況



出典：高岡市商業観光課・末広開発㈱「空き店舗調査」
（注）末広町商店街、末広坂商店街、高の宮通り商店街（平成 21 年解散）、御旅屋通り商店街の合計

⑪歩行者・自転車通行量の状況

中心市街地のメインに位置する中心商店街（６地点）における歩行者・自転車通行量は長期にわたって減少を続け、通行量は平日・休日ともに高岡市が調査を開始した平成６年時点の半分以下の水準にまで落ち込んでいる。特に、平成 9～12 年の４年間で約３割減と落ち込みが大きく、この傾向は中心市街地の小売業年間販売額の減少とほぼパラレルの関係にある。中心市街地への最大誘因は「買物」であるが、郊外部および周辺市町村に大規模小売店舗が相次いで出店し、その一方で中心市街地内の大規模小売店舗の撤退（平成９年ダイエー高岡店の閉店）、商店数が減少することによって中心市街地の商業機能が低下した。そのため、買物客の流出による商業集積としての機能がさらに落ち込み、中心市街地の賑わいがよりいっそう失われていくという負のスパイラルに陥っていることがわかる。

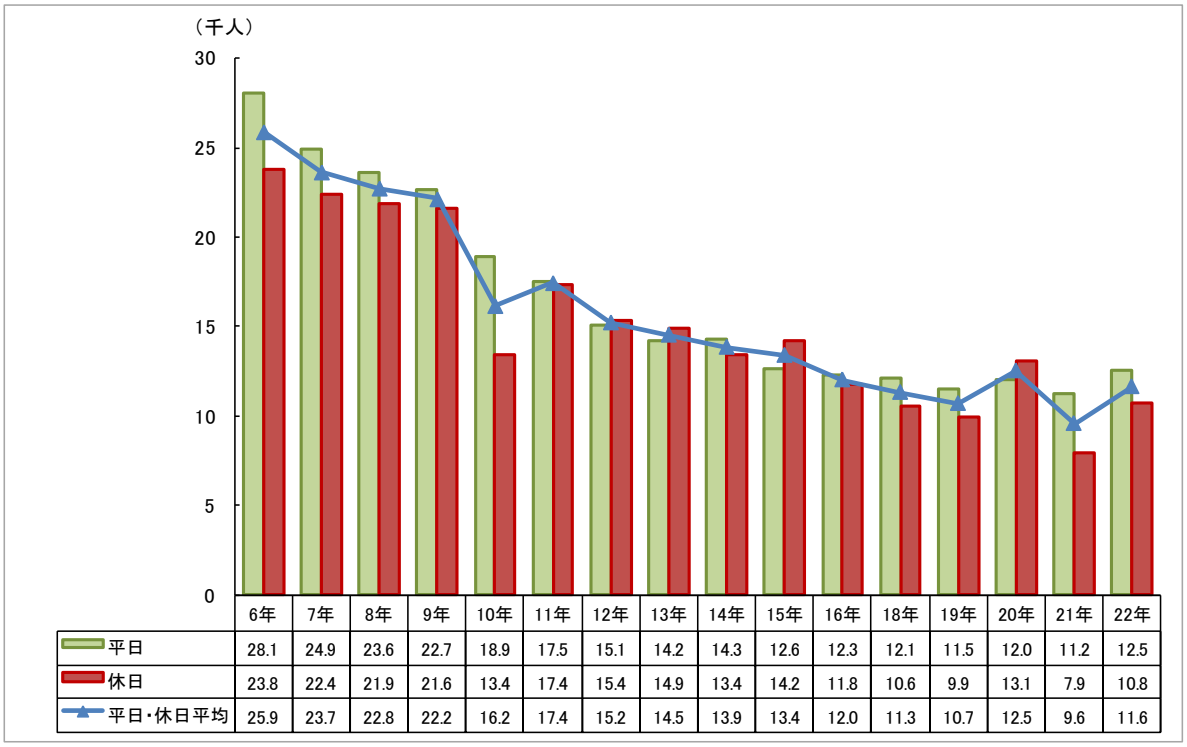
そして、平日の通行量は平成 16 年４月のウイング・ウイング高岡オープン以後

横ばいに近い水準を保ちながら推移しているが、休日の通行量は平成 14 年にイオン高岡ショッピングセンター（現在のイオンモール高岡）が開店したこともあり、減少を続け、平成 16 年以降は再び平日の通行量が休日の通行量を上回る状態となった。

１期計画実施後は空き店舗対策の支援強化の取り組みや、観光・文化的な魅力向上など高岡市の地域特性を活かした新たな誘引強化の取り組みを通じ、平成 19 年以降は歩行者・自転車通行量の減少に歯止めがかかりつつある。

【歩行者・自転車
通行量６調査地点】

中心商店街（６地点）における歩行者・自転車通行量の推移



	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年	18年	19年	20年	21年	22年
平日	28.1	24.9	23.6	22.7	18.9	17.5	15.1	14.2	14.3	12.6	12.3	12.1	11.5	12.0	11.2	12.5
休日	23.8	22.4	21.9	21.6	13.4	17.4	15.4	14.9	13.4	14.2	11.8	10.6	9.9	13.1	7.9	10.8
平日・休日平均	25.9	23.7	22.8	22.2	16.2	17.4	15.2	14.5	13.9	13.4	12.0	11.3	10.7	12.5	9.6	11.6

出典：高岡市商業観光課「歩行者・自転車通行量調査」

（注）調査地点：①駅前地下街自由通路、②末広町（東側）、③末広町（西側）、④高の宮通り、⑤末広坂（両側）、⑥御旅屋通り

平成 17 年は調査が未実施

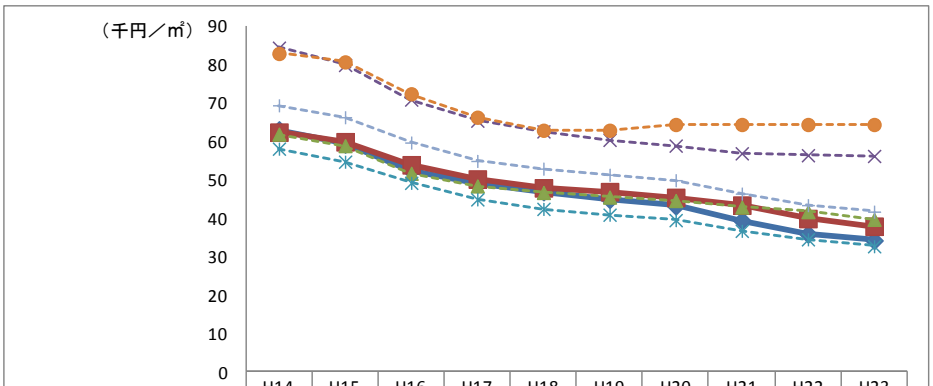
⑫地価の状況

中心市街地内住宅地の地価は長期的に下落傾向にあるが、下落率の傾向は近年マンションの建設等による開発が進んだ駅南部、城東地区を除いた全市的な傾向に近く、地価も隣接する地域と比較して相対的に低くなっている。

しかしながら、駅北部の中心市街地には狭隘な区画が多く、まとまった広さの土地を確保できないことに加え、老朽化した建物が多く、それらの除却費がかかることなどにより、開発が進まない状況にある。

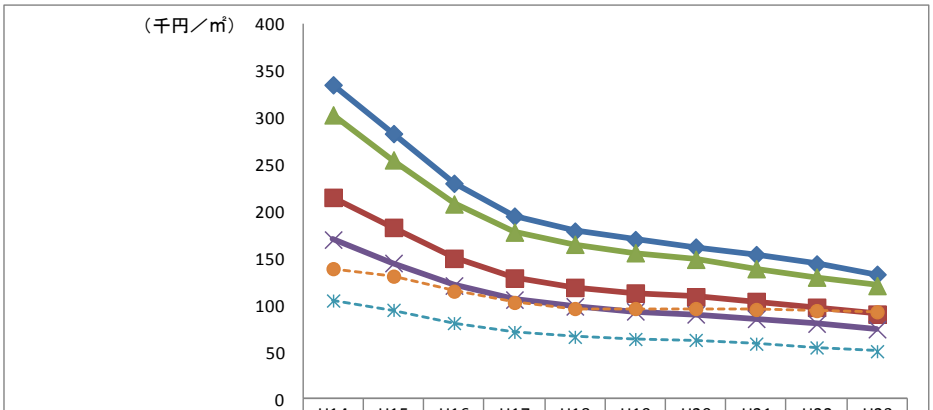
他方、中心市街地内商業地の地価は、周辺地区と比較して下落幅が大きいものの、水準自体は依然として高く、中心市街地への新たな店舗や事業所の進出が進まない要因の一つになっていると考えられる。

中心市街地および隣接地区における地価（１㎡あたり）の推移（住宅地）



	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
大町91番外	63	59	53	49	47	45	43	40	36	34
金屋町190番2	63	60	54	50	48	47	46	44	40	38
熊野町149番	62	59	52	49	47	46	45	43	42	40
城東2丁目984番1	85	80	71	66	63	61	59	57	57	56
永楽町1720番10	58	55	49	45	43	41	40	37	35	33
京田110番	83	81	73	66	63	63	65	65	65	65
内免5-55-33	70	66	60	55	53	51	50	47	44	42

中心市街地および隣接地区における地価（１㎡あたり）の推移（商業地）



	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23
宮脇町字吉田1003番1外	335	283	230	195	179	170	162	154	144	133
丸の内65番1	215	183	150	129	119	113	109	104	98	91
新横町1044番1外	303	255	208	178	165	156	149	139	130	121
駅南1-830-7	170	145	121	106	99	94	90	86	80	75
清水町2-163番外	105	95	81	72	66	64	63	59	55	51
赤祖父430番2	139	131	115	103	97	97	97	96	94	93

出典：国土交通省地価公示　　（注）波線は中心市街地に隣接する地区の公示価格

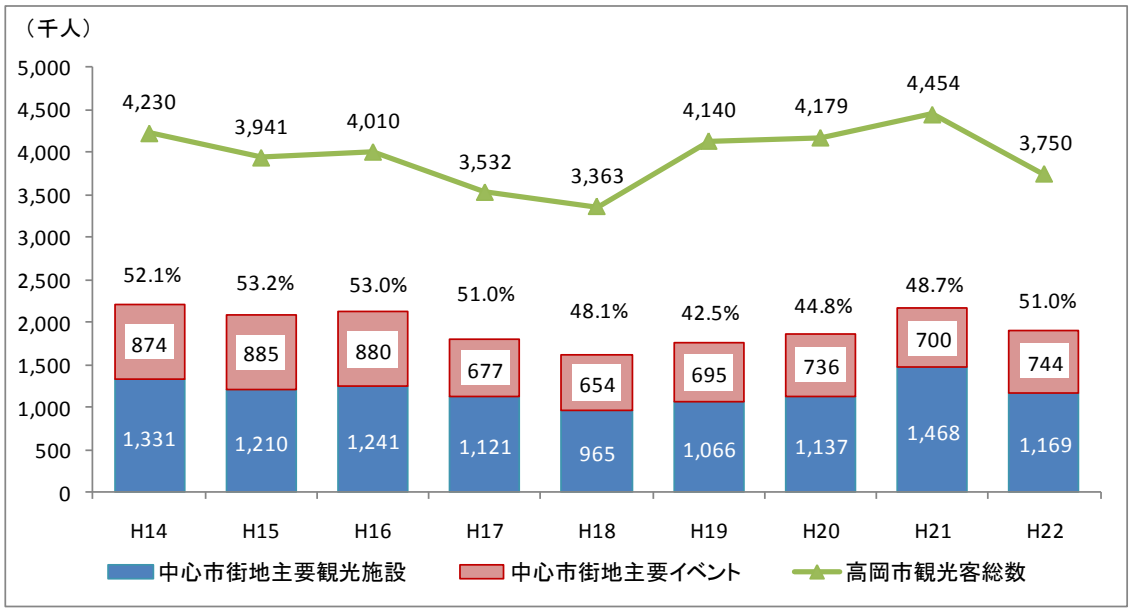
⑬観光客の状況

中心市街地には、高岡市を代表する歴史・文化資産が集積しており、本市への観光客の約半数は中心市街地に立ち寄る。中心市街地主要観光施設における観光客入込数は、平成８年の緑化フェア開催以降、大河ドラマ「利家とまつ」が放送された平成 14 年を除き、１期計画がスタートする前年の平成 18 年までは長期的減少トレンドにあった。

その後、１期計画がスタートした平成 19 年以降は、中心市街地においても交流人口拡大に向けた各種取り組みの実施、開町 400 年事業の実施に力を入れ、さらに東海北陸自動車道の全線開通もあって、全市および中心市街地において観光客数が増加基調となった。

平成 22 年は前年の開町 400 年事業の反動減および東海北陸自動車道全線開通の効果が薄れてきたことにより、全市的に観光客入込数が減少する中で、中心市街地主要観光施設の入込数も減少したが、１期計画開始時点と比較して依然として増加トレンドにあり、主要イベントへの入込数は増加している。

観光客入込数の推移と中心市街地のシェア



出典：高岡市商業観光課

（注１）・ 中心市街地主要観光施設は、古城公園、瑞龍寺、高岡大仏、山町筋（菅野家住宅、土蔵造りのまち資料館）、鋳物資料館を合計したもの
・ 中心市街地主要イベントは、高岡御車山祭・高岡七夕まつり・ 高岡万葉まつり ・日本海高岡なべ祭り・高岡桜まつり・八丁道おもしろ市・金屋町楽市 を合計したもの

（注２）・ 瑞龍寺ライトアップは瑞龍寺の観光客入込数とし計測
・ 平成21年の古城公園は開町400年記念事業による入込客数を含む
・ 平成14年～平成17年は、旧高岡市と旧福岡町の合計

⑭ＪＲ高岡駅周辺における公共交通利用者の状況

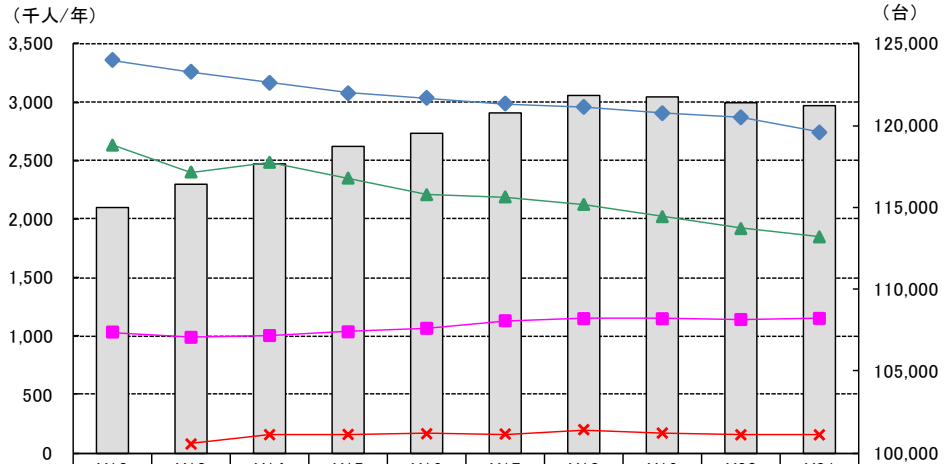
全市の人口が減少する中、これまで増加を続けてきた乗用車保有台数も平成 18 年をピークに減少しており、人的流動については、その発生絶対量が減少に向かっていると推察される。こうした状況下で、公共交通機関の利用者数も万葉線を除い

て漸減傾向にあり、市街地の日常的な移動手段として平成 13 年度より運行が始まったコミュニティバスについても平成 18 年度をピークに利用者が減少している。

しかし、１日当りの利用者数をみると、平成 21 年はＪＲ高岡駅では 7,500 人/日が乗車利用しており、加越能バスおよび万葉線の高岡駅での乗車利用はそれぞれ 2,200 人/日、1,000 人/日と推定され、コミュニティバスを含めると、現在でも約 11,000 人が移動する際の拠点としてＪＲ高岡駅周辺が機能している。

今後は、平成 23 年８月に供用開始となった南北自由通路や橋上駅舎、および今後整備が進められる駅北口交通広場、高岡ステーションビルにより、交通・交流のための結節点としての機能が強化され、ＪＲ高岡駅周辺が賑わい創出の拠点として大きな役割を発揮することが期待されている。

公共交通機関の利用状況



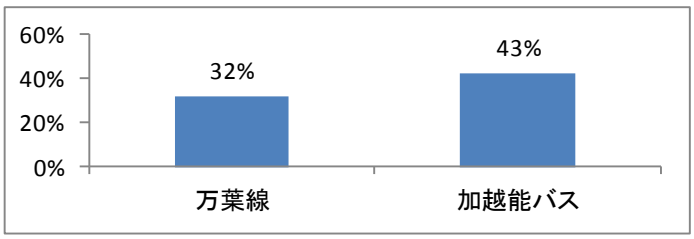
	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
乗用車保有台数	114,994	116,423	117,691	118,714	119,549	120,757	121,798	121,761	121,430	121,249
JR高岡駅乗車客数	3,361	3,260	3,165	3,076	3,037	2,988	2,959	2,905	2,870	2,741
万葉線利用者数	1,033	988	1,003	1,035	1,065	1,130	1,148	1,147	1,140	1,150
加越能バス利用者数	2,632	2,402	2,485	2,350	2,208	2,189	2,125	2,020	1,918	1,847
コミュニティバス利用者数		75	155	157	163	160	198	169	154	154

出典：高岡市統計書、富山県政要覧

（注１）・乗用車保有台数は、各年 3/31 現在の数値。平成 18 年 3 月までは旧高岡市と旧福岡町の合計。

（注２）・コミュニティバスは、平成 18 年度より 2 ルート運行。

乗車人員数に占める高岡駅前電停・バス停乗降者の割合



出典：
（万葉線）平成 21 年 6 月調査
（加越能バス）
平成 22 年　高岡市自動車乗降調査

（４）市民から見た中心市街地の現状

①市民意識調査

ｉ）調査実施時期

平成 23 年 7 月 1 日～7 月 19 日

ⅱ）調査対象・方法

18 歳以上の市民 1,870 人を無作為に抽出し、郵送配布・回収により調査を実施。763 人から回答を得た（回収率 40.8%）。

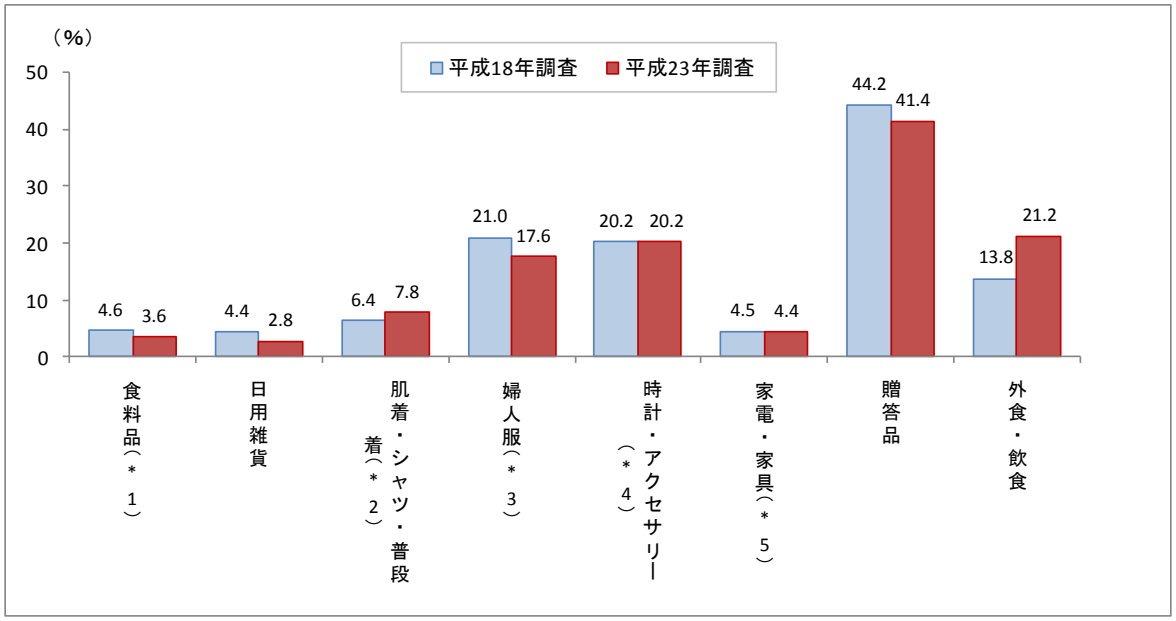
ⅲ）買物・飲食での中心市街地利用状況および中心商店街の商圏

買物・飲食等で中心市街地を最も多く利用する人の割合は、「贈答品」で 41.4%、「飲食」で 21.2%、「時計・アクセサリー」で 20.2%、「婦人服」で 17.6%となっている。これに対し、最寄品目で中心市街地を最も利用するという回答は極めて少ない。

平成 18 年に実施したアンケート結果と比較すると、購買にかかる部分については外出用の衣料品で若干の低下がみられるものの、全般的に大きな変化はなく、「買物」を目的として週に１回以上中心市街地を訪れるとの回答が 27.9%あることと合わせ、市内全域を商圏（買回り品商圏＝週末商圏）とする商業集積は維持されている。

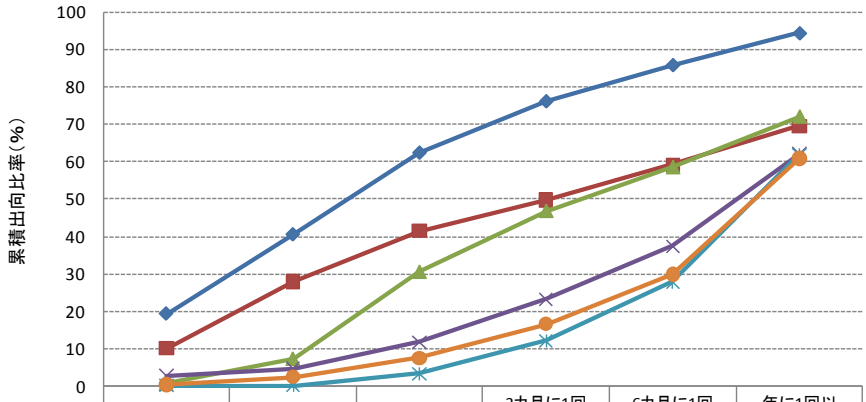
また、「飲食」については、中心市街地内で飲食店が増加したことにより、平成 18 年の 13.8%が平成 23 年調査では 21.2%と大幅に上昇していることに加え、「教育・教養サービス」「レジャー、娯楽」分野で回答者の約３分の１が「中心市街地に行く場合が多い」としており、商業以外の教養、文化、娯楽の場としても中心市街地が一定の位置付けを得ていることがわかる。

買い物・飲食での中心市街地の利用状況
（最も利用する場所として中心商店街・百貨店を挙げた割合）



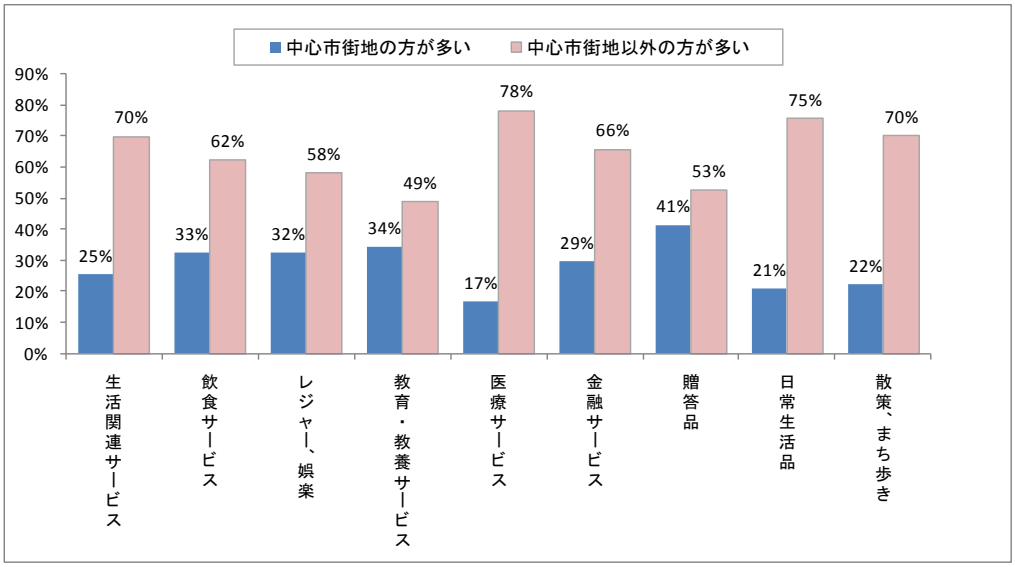
（*1）平成 18 年は「日常の食料品」、（*2）平成 18 年は「肌着・下着類」「普段着」の平均、（*3）平成 18 年は「外出着」、（*4）平成 18 年は「服飾雑貨」、（*5）平成 18 年は「家具・ｲﾝﾃﾘｱ」「家電製品」の平均

中心市街地に出かけることが多い目的の頻度別累積出向比率



	ほぼ毎日	週1回以上	月1回以上	3カ月に1回以上	6カ月に1回以上	年に1回以上
全目的	19.3	40.5	62.4	76.1	85.8	94.4
買い物（朝市・夕市を除く）	10.1	27.9	41.5	49.8	59.2	69.6
食事・飲食	0.7	7.3	30.5	46.8	58.5	72.0
高岡駅の利用	2.8	4.6	11.8	23.2	37.4	62.0
祭りやイベント	0.1	0.1	3.4	12.2	27.8	61.9
古城公園の利用	0.4	2.5	7.6	16.6	29.9	60.8

他の地域と比較した中心市街地（全域）の選択状況

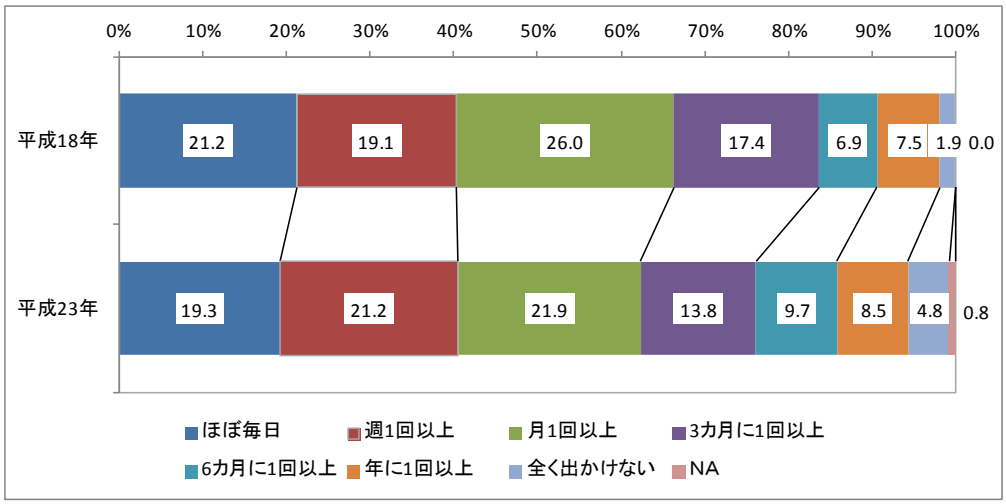


ⅳ）中心市街地への来街頻度

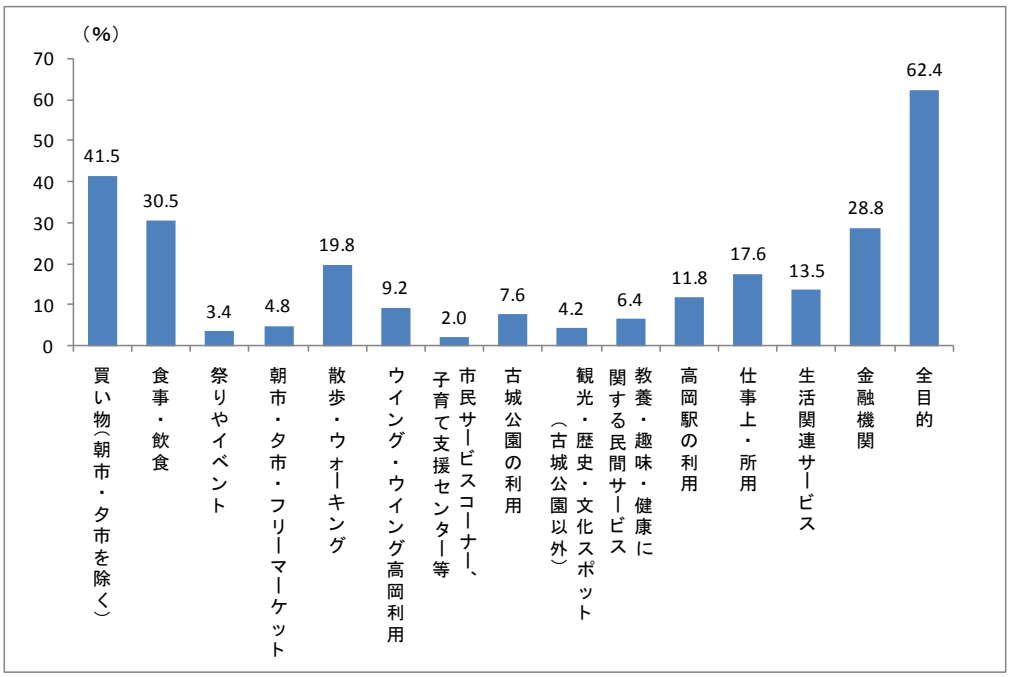
何らかの目的で中心市街地に出かける頻度は、「週に１回以上」で全回答者の約４割、「月に１回以上」で約６割、「３カ月に１回以上」で４分の３、「６カ月に１回以上」で 85.9%となり、「全く出かけない」人の割合は 4.8%にとどまる。即ち、ほぼ全市民が何らかの目的で最低でも１年に１回は中心市街地を訪れていることになる。但し、平成 18 年に実施したアンケート結果と比較して、中心市街地への来街頻度はやや低下している。

目的別の来街頻度については、当該行動の実施頻度が異なることから一概には言えないが、「買物」および「飲食」目的による来街頻度が高く、これらが中心市街地への主要な来街誘因となっている。

来街頻度（全目的）



１カ月に１回以上来街する人の割合（目的別）



ｖ）中心市街地に対する現状認識及び改善の評価

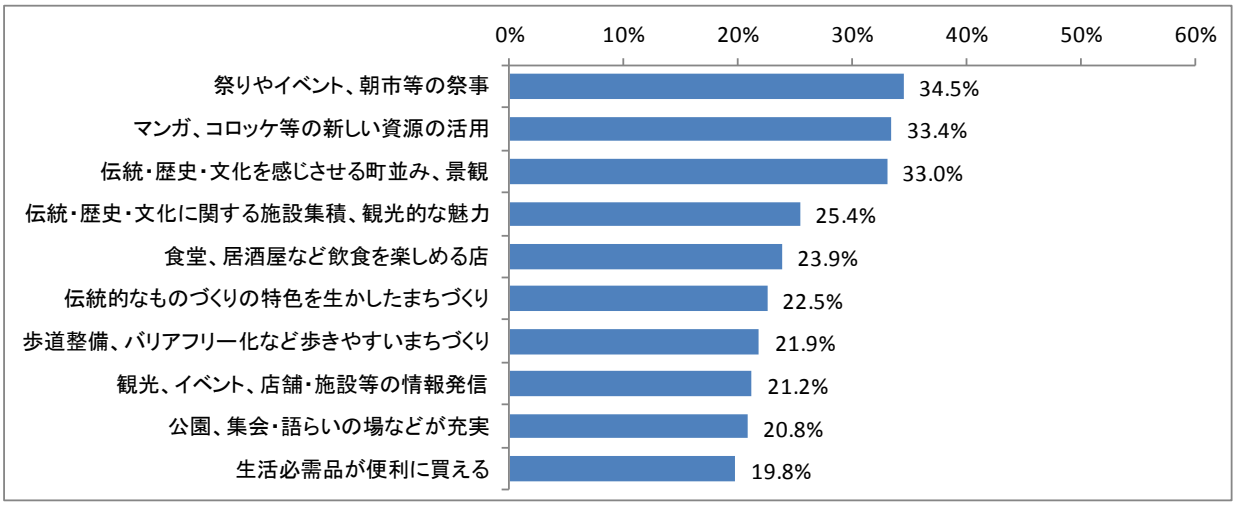
中心市街地の現状認識および改善状況について尋ねたところ、現状については全般的に否定的な見方が多い中、「歴史的な町並み、景観」「祭り・イベントの実施」「マンガやコロッケ等の新しい資源を活かしたまちづくり」において市民の評価が比較的高く、中心市街地の歴史・文化や高岡らしい特徴を活かしたまちづくりの取り組みが評価されている。

また、「交通利便性」「歩行環境の整備」「公園」「公共施設」といった都市福利機能についても、現状の評価が十分に高まっているとは言えないまでも「改善している」との評価がなされ、特に中心市街地居住者から一定の評価を得ている。このことから、中心市街地活性化に向けた各種環境整備の取り組みが、中心市街地居住者を中心として市民に浸透してきていることがうかがわれる。

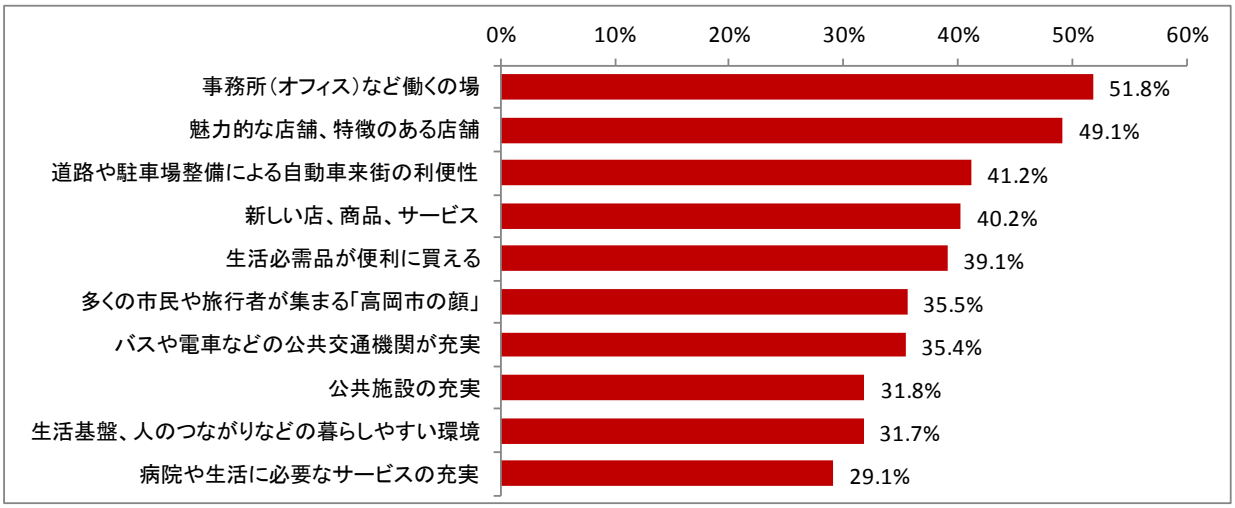
他方、「業務機能」「店舗・新サービス」といった商業的、経済的な側面につい

ては総じて現状に対する評価が低いことにくわえ、「以前よりも悪化した」とする回答が多く、商業・産業面における中心市街地活性化の取り組み強化が求められていると言える。

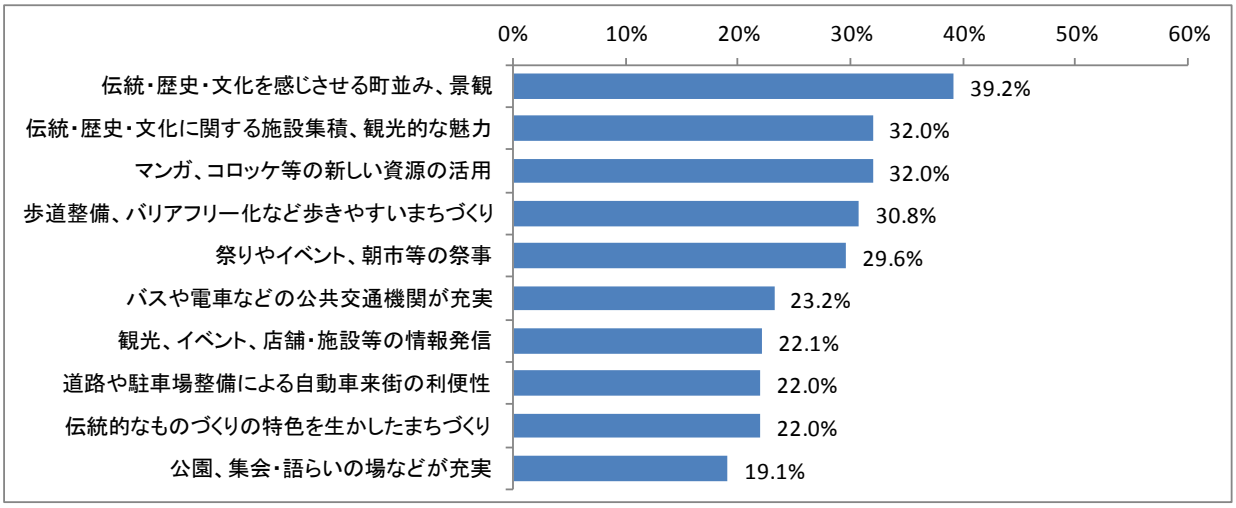
中心市街地の現状として比較的評価が高い項目



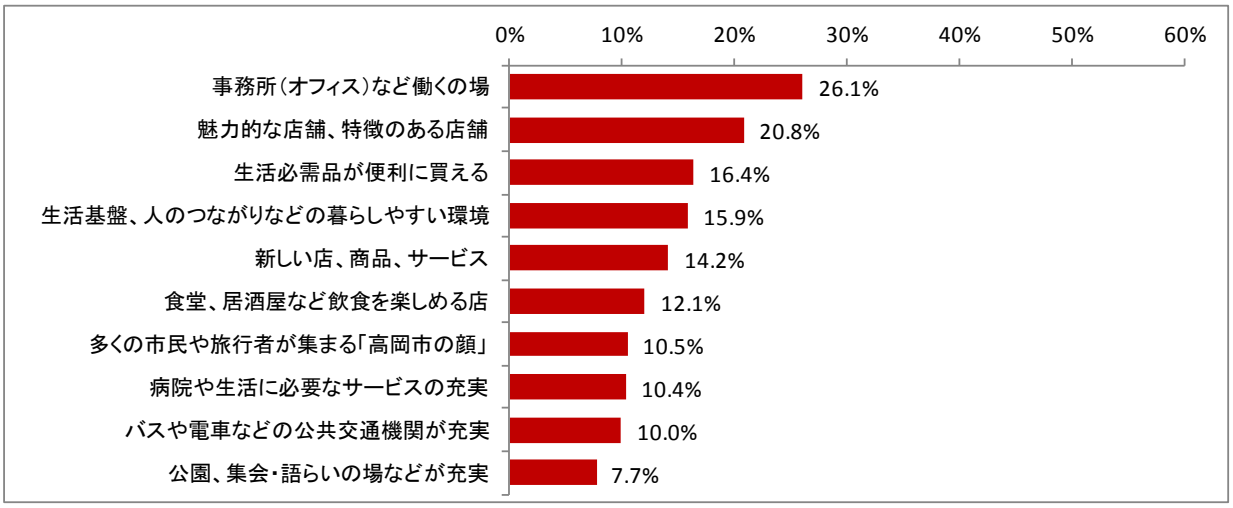
中心市街地の現状として評価が低い項目



中心市街地において「改善した」とする回答が多くみられた項目



中心市街地において「悪化した」とする指摘が多くみられた項目



②中心市街地来街者アンケート調査

ｉ）調査実施時期

平成 23 年 7 月 29 日・30 日

ⅱ）調査対象・方法

中心市街地内の４ヵ所（ウイング・ウイング高岡周辺、駅前地下自由通路、駅前バスターミナル周辺、御旅屋セリオ前）において、歩行者に対する直接面接方式により調査を実施し、555 人から回答を得た。

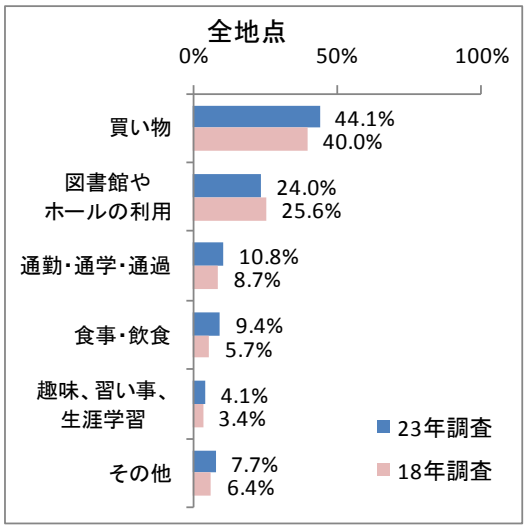
ⅲ）中心市街地の来街者の特徴

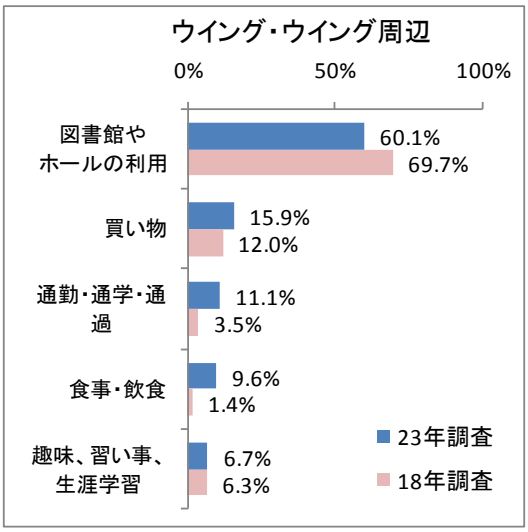
中心市街地への来街者目的は、「買物」が 44.1%、「図書館・ホールの利用」が 24%、「趣味、習い事、生涯学習」が 4.1%となっており、御旅屋セリオおよびウイング・ウイング高岡が集客の拠点として機能している。また、中心市街地において飲食店が増加したことにより、「飲食」を目的とする来街者が 9.4%となり、平成 18 年調査と比較して増加した。

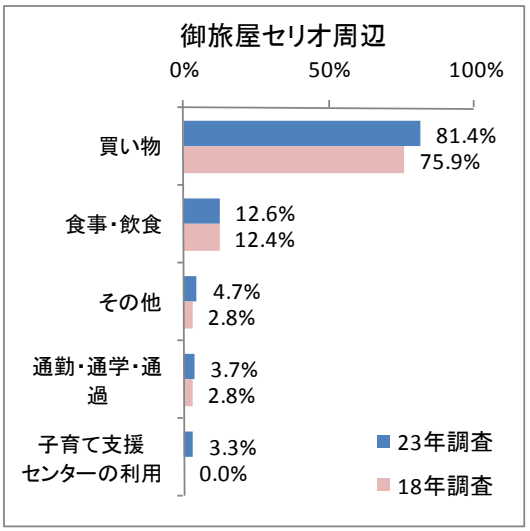
御旅屋セリオ～ウイング・ウイング高岡間の双方向による回遊割合は 13.7%となっており、２拠点間で一定割合の回遊が発生していることが確認された。

来街者の滞在時間については、回答者の約６割が「１時間未満」としており、平成 18 年調査から大きな変化はみられなかった。但し、ウイング・ウイング高岡周辺における回答者では「２時間以上」とする回答がやや増加しているのに対し、御旅屋セリオ周辺における回答者では「30 分未満」が増加し、滞在時間が短くなっている。御旅屋セリオ周辺の買物目的による来街者の購入品目として「食料品」の回答割合が増加していることを考慮すれば、御旅屋セリオが周辺住民の日常的な買物の場として機能している度合いが高まっているものと考えることができる。

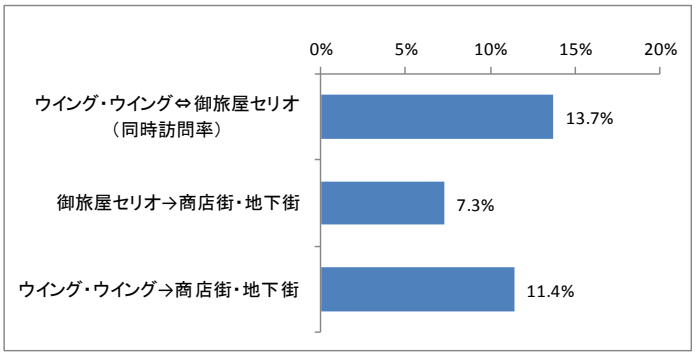
中心市街地への来街目的



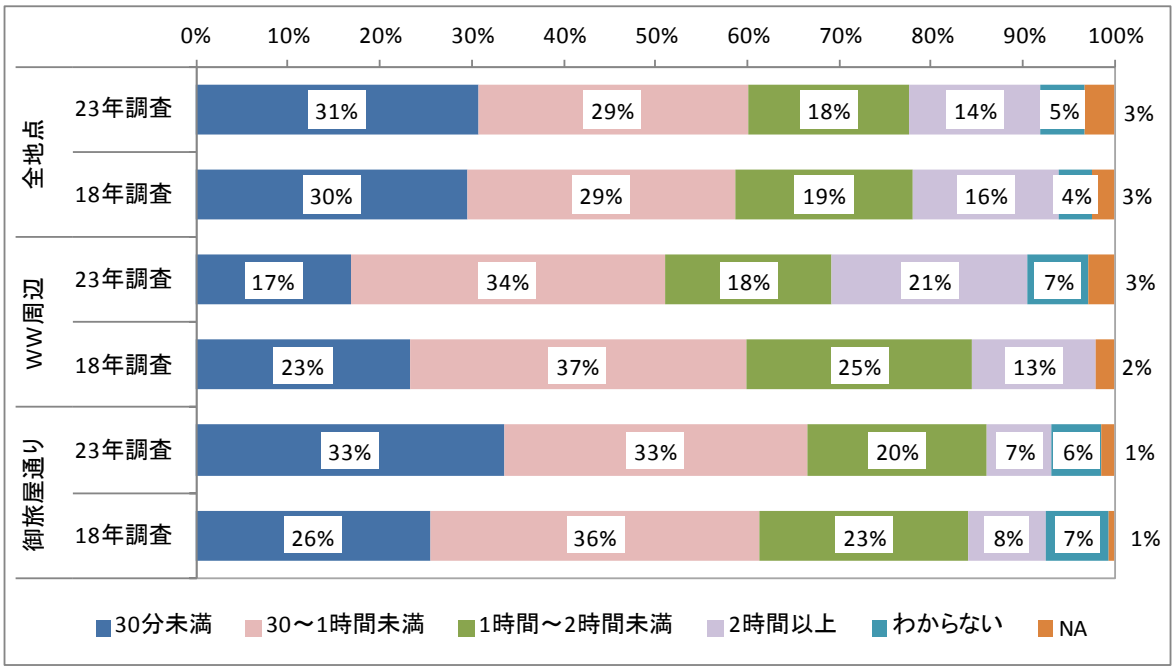




来街者の回遊性



来街者の滞在時間

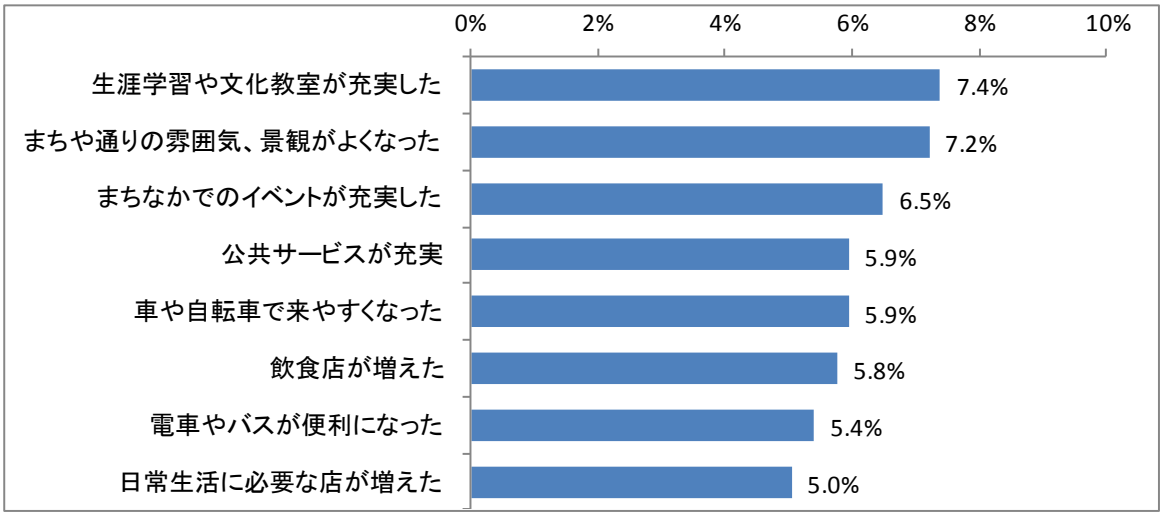


ⅳ）中心市街地活性化の取り組みに対する評価

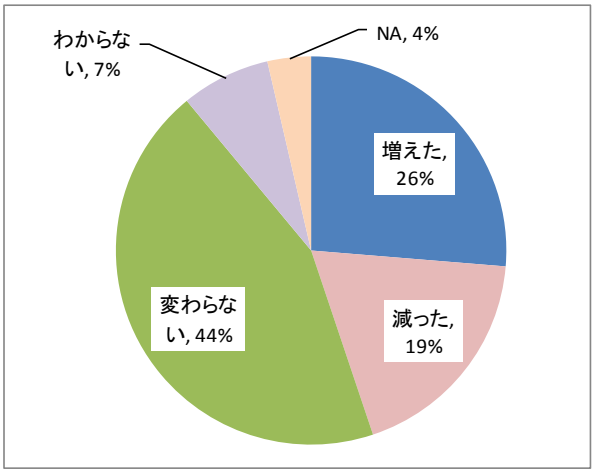
これまでの中心市街地活性化の取り組みに対し、市民意識調査と同様に「文化・学習活動」「まちの雰囲気・景観」「イベントの充実」「公共サービス」「交通利便性」について「良くなっている」との評価が比較的多く、特に「来街頻度が増加した」と回答した者においてこれらの事項が「良くなっている」として評価する傾向がみられた。

また、来街頻度の変化については、「増加」が「減少」を約 7 ポイント上回る結果となっているが、市民意識調査において中心市街地への来街頻度が低下していることや、「買物」「飲食」においては「増加」とした回答数以上に「減少」とした回答数が存在していることから、目的に応じて来街頻度が増加した人と減少した人とに分化しているものと考えられる。

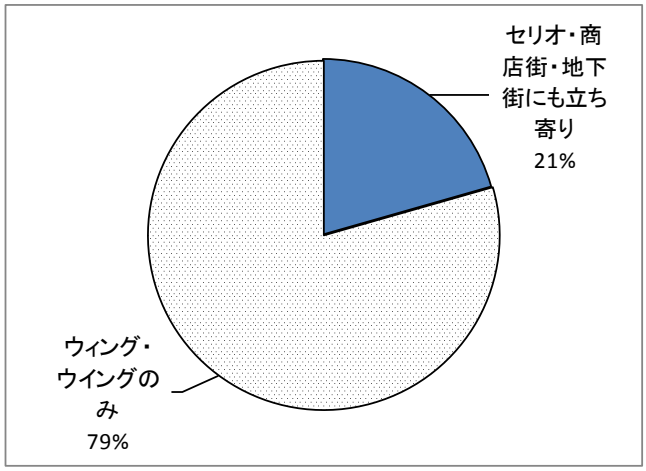
中心市街地で「良くなった点」



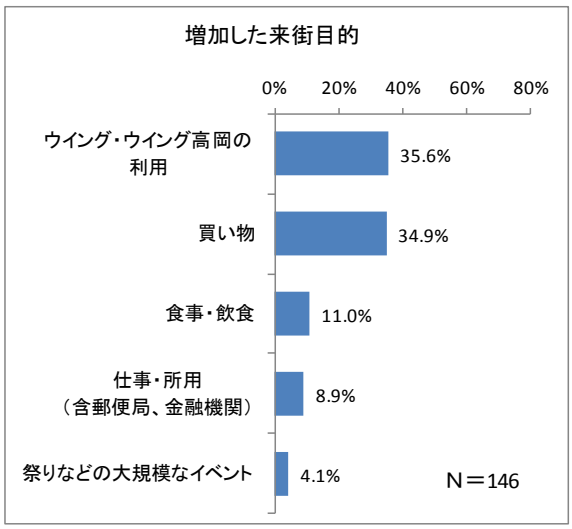
来街頻度の変化

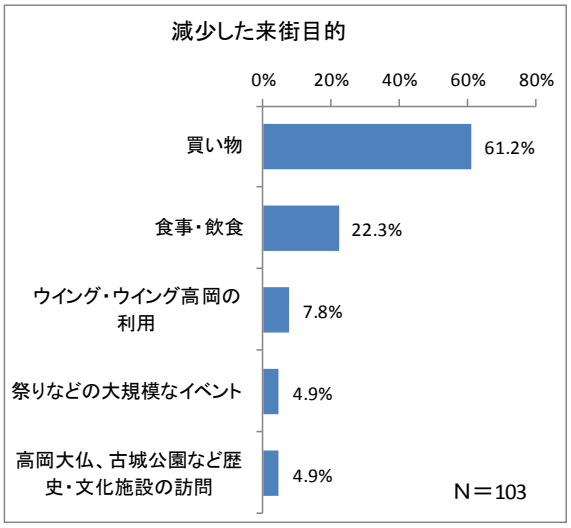


ｳｲﾝｸﾞ・ｳｲﾝｸﾞ高岡来館者の中心市街地内他施設訪問率



頻度が変化した来街目的





③まちなか居住者アンケート調査

ⅰ）調査実施時期：平成 23 年８月 30 日～９月 15 日

ⅱ）調査対象・方法

中心市街地及びその周辺部（平米地区、定塚地区、下関地区、博労地区、川原地区、成美地区の各一部）の 18 歳以上の居住者 1,500 名を無作為に抽出し、郵送配布・回収により調査を実施。719 人から回答を得た（回収率 47.9%）。

ⅲ）中心市街地の居住環境に対する評価

地域の「住みよさ全般」については、86%が「住みよい・どちらかというと住みよい」と回答し、平成 18 年に実施したまちなか居住者アンケート調査と同様の結果となった。

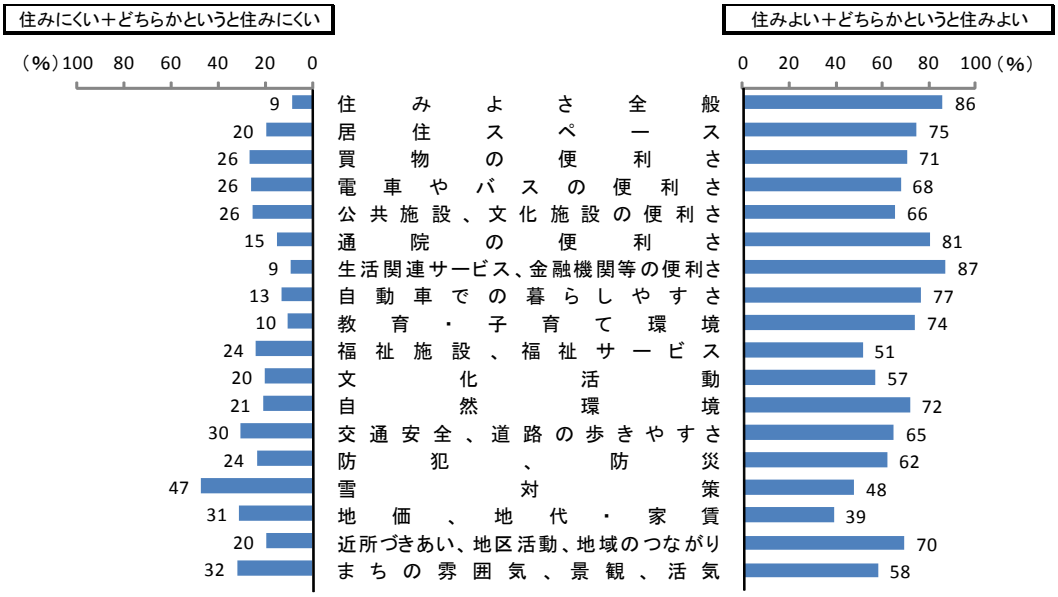
また、回答者全体の約７割が「今後もまちなかに居住したい」と回答し、市外を含めたまちなか以外への移転を希望する回答は１割未満と極めて少なく、まちなかへの強い居住意向があることが確認された。

アンケートにおいて質問した項目のうち、「住みよい・どちらかと言えば住みよい」とする回答が半数を下回っているものは「地価、地代・家賃」（39%）と「雪対策」（48%）であり、中心市街地居住の高コスト構造、高齢化が進む中心市街地での除排雪が障害要因として指摘されている。

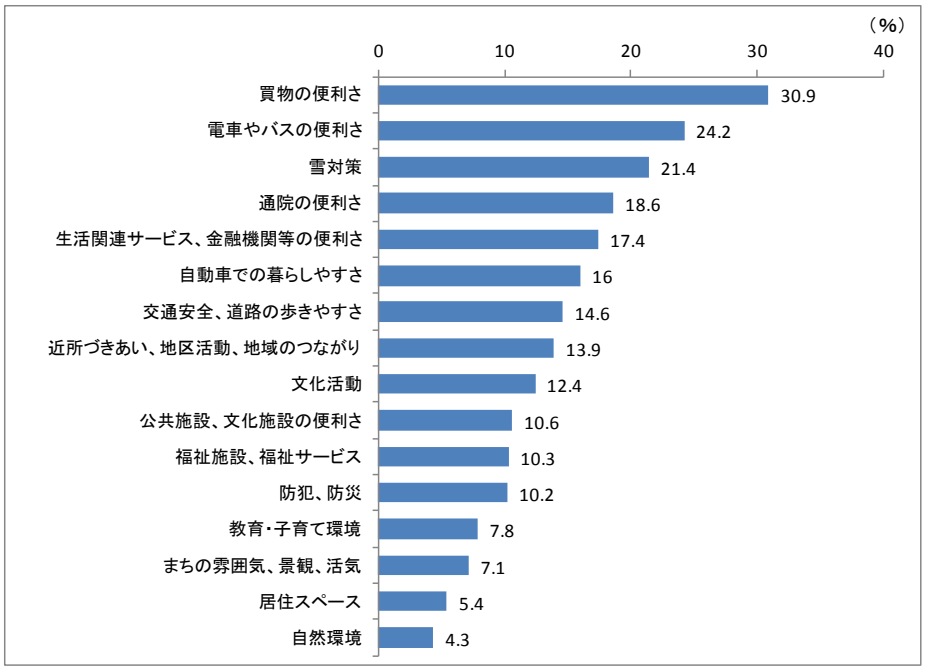
また、「福祉施設、福祉サービス」「まちの雰囲気、景観、活気」「文化活動」「防犯・防災」「公共施設、文化施設の便利さ」「電車やバスの便利さ」「交通安全、道路の歩きやすさ」といった項目は、１割以上の回答者が「改善した事項」として当該項目を選択していることから、市街地の整備・改善にかかる事業の実施や交通利便性の向上に向けた各種取り組みの成果が居住者に浸透したと考えることができる。

さらには、居住環境で改善した事項として「買物」が最も多く選択されており、中心市街地における空き店舗数の減少や定期的に開催している朝市・夕市等の日常生活品の購入機会の提供が、中心市街地居住者の日常生活を支える手段として評価されているものと解することができる。

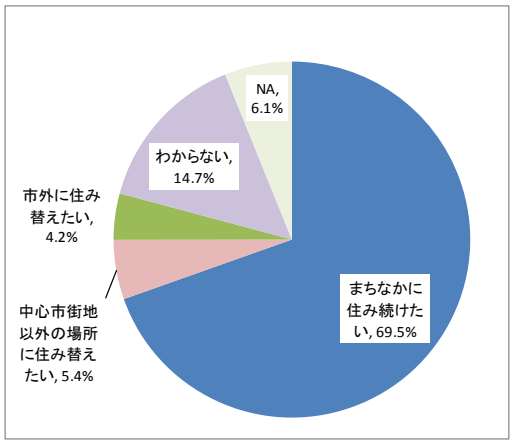
中心市街地の住みよさ



まちなかの居住環境について「良くなったもの」



まちなかへの居住意向

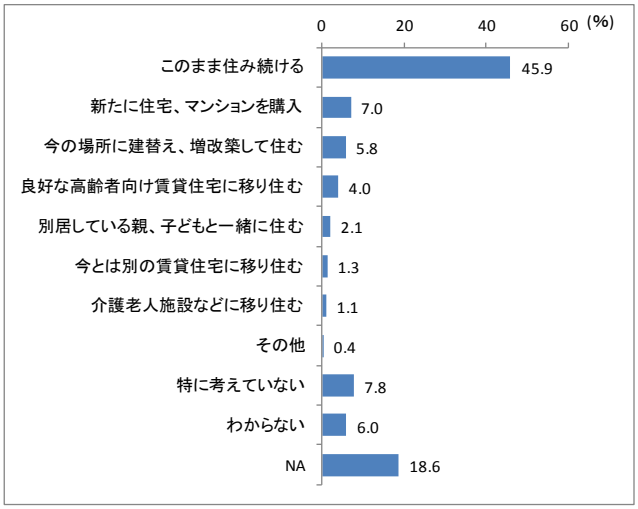


ⅳ）今後予想されるニーズへの対応

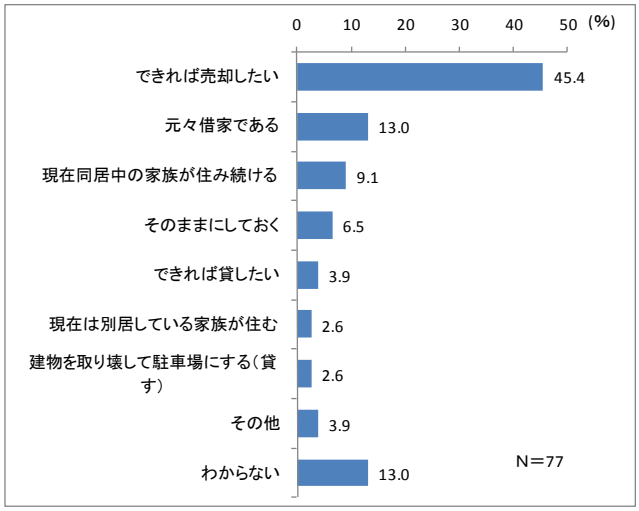
今後希望する居住形態としては、「このまま住み続ける」とする回答が約半数を占めるが、「今の場所に建替え、増改築して住む」「新たに住宅、マンションを購入」を合わせると１割程度存在しており、こうしたニーズに対応するため、住宅取得支援や、マンション建設のまちなかへの誘導を通じ、流出防止を図っていく必要がある。

また、まちなかでの居住に対する強い意向はみられるものの、一部には「転居したい・転居せざるを得ない」という声もあり、中心市街地内外への住み替え時には、約半数が現在の住居を売却したいという意向を持っている。当該住宅の状態にもよるが、こうした将来見通しに対応するため、中古住宅取得支援や隣接地購入による建替え支援を図りながら、空き家化・空き地化の防止に努める必要がある。

今後希望する居住形態



住み替える場合における現在の住まいの処理



〔３〕１期計画に掲げた事業の成果と課題

（１）１期計画の概要

高岡市では、平成12年度から概ね10年間を計画期間として、旧計画を策定し、中心市街地を「高岡・フェスティバルマート（高岡・にぎわ・空間）」として位置づけ、①市民をはじめ広く県内外の人々が集い、非日常的な「時間」と「空間」を楽しめる「交流の場」、②市民から企業まで「多様な主体」により、活発な活動が図れる「活動の場」、③高岡の「顔」としてアピール（主張）する「情報発信の場」、を将来像に置きながら３９の事業に取り組んできた。

旧計画の後期（平成１７年度からの５年間）途中において、いわゆる中心市街地活性化法の改正を受け、旧計画では十分な成果が挙がらなかった、観光地や商店街の回遊性の向上やまちなか居住の誘発、空き店舗の開業、公共交通の利便性向上など計画内容を見直し、高岡開町以来４００年の歴史・文化資産と現代的な都市機能に満たされた居心地の良さと賑わいが調和よく織合わさった高岡の地域特性を生かしたまちづくりに取り組むため、平成19年11月に、１期計画に国の認定を受け、中心市街地活性化の施策推進に積極的に取り組んできた。

１期計画における計画期間は平成19年11月から平成24年３月の４年５カ月間とし、計画最終年次における目標達成項目として以下の３つを設定した。

【目標１】歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大
数値目標＝主要観光施設における観光客入込み数：122万人（当初比較25万人増）

【目標２】まちなか居住の推進
数値目標＝中心市街地における居住人口：17,800人（当初比較203人増）

【目標３】中心商店街の賑わいの創出
数値目標＝中心商店街（６地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値：13,500人（当初比較2,200人増）
数値目標＝中心商店街（４商店街）における空き店舗数：37件（当初比較９件減）

（２）事業の進捗状況

１期計画において掲げた92事業のうち、32事業が完了、56事業が実施中で、未実施の事業は４事業となっており、事業進捗率は95.7%である（平成23年10月現在）。

１期計画における事業の実施状況（平成 23 年 10 月現在）

No.	事業名	事業期間（年度）	進捗状況
1	高岡駅交通広場整備事業	H19～	実施中
2	万葉線延伸部施設整備事業（高岡駅地区）	H22～	実施中
3	氷見線移設事業（実施設計等［氷見線移設］）	H19	完了
	氷見線移設事業（氷見線移設［高岡駅地区］）	H19～H22	
4	市道坂下町大町線整備事業	H19～H21	完了
5	市道坂下町新横町線整備事業	H19～H20	完了
6	市道末広町西2号線整備事業	H18～H19	完了
7	市道鴨島町木舟町線整備事業	H19～H21	完了
8	市道木舟町大坪町一丁目線整備事業	H22～H23	実施中
9	市道堀上町金屋町線整備事業	H19	完了
10	市道堀上町中島町線整備事業	H20	完了
11	市道片原横町川原本町線整備事業	H20～H21	完了
12	市道片原町川原町1号線整備事業	H22	完了
13	市道片原町川原町 2 号線整備事業	H22	完了
14	高岡駅南駐車場整備事業（駅南駐車場、駅南 18 号線）	H18～H21	完了
15	高岡駅前自転車駐輪場整備事業	H19	完了
16	地域生活基盤施設（地区内各所）整備事業	H18～H20	完了
17	高岡古城公園整備事業	H19～H20	完了
18	市営オタヤグリーンパーキング設置事業	H19	完了
19	都市計画道路桜馬場長慶寺線整備事業	H16～H25	実施中
20	高岡駅北口駅前広場整備事業（高岡駅佐加野線（北口駅広））	H16～	実施中
21	高岡駅南北自由連絡通路整備事業（高岡駅南北自由連絡通路）	H16～H23	完了
22	高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備事業	H16～	実施中
23	市道鴨島町木舟町線整備事業	H18～H23	実施中
24	山町筋重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業	H13～	実施中
25	高岡御車山保存修理事業	H17～	実施中
26	都市計画道路高岡駅佐加野線整備事業	H20～H26	実施中
27	高岡大仏観光バス駐車場整備事業	H19	完了
28	高岡大仏保存修理事業	H19	完了
29	前田利長墓所詳細調査事業	H18～H19	完了
30	金屋町町並み保存に関する意向調査事業	H19～H20	完了
31	高岡市鋳物資料館運営事業	H19～	実施中
32	重要文化財菅野家住宅運営事業	H10～	実施中
33	高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業	H14～	実施中

34	「8月のクリスマス」記念館運営事業	H17～H19	完了	
35	ウイング・ウイング高岡運営事業	H16～	実施中	
36	大手町地内中心市街地共同住宅供給事業		未実施	
37	優良住宅団地支援事業	H13～	実施中	
38	まちなか住宅取得支援事業	H19～	実施中	
39	まちなか共同住宅建設促進事業	H19～	実施中	
40	まちなか優良賃貸住宅補助事業	H19～	実施中	
41	池の端通り都市景観形成事業	H12～H20	完了	
42	大規模小売店舗立地法の特例措置	H19～	実施中	
43	まちづくり活動事業（中心市街地回遊性創出事業）	H18～H19	完了	
44	高岡開町 400 年記念事業	H19～H21	完了	
45	大学連携による伝統産業再生事業 ［伝統産業再生事業］	H19～	実施中	
	大学連携による伝統産業再生事業 ［工芸都市高岡クラフト展開催事業］	S61～		
	大学連携による伝統産業再生事業 ［金屋町楽市開催事業］	H20～		
46	（仮称）わろんが横丁整備事業		未実施	
47	たかおかナビプロジェクト	H19～H22	完了	
48	地域に根ざした文化資産を活用した都市再生プロジェクト	H19	完了	
49	“見る”“作る”“学ぶ”『富山県西部地域』産業観光ツーリズム推進事業	H19～H21	完了	
50	瑞龍寺ライトアップ事業	H12～	実施中	
51	観光バス市営駐車場料金補助事業	H19～	実施中	
52	中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業	H18～	実施中	
53	工房「手わざ」運営事業	H15～	実施中	
54	駅地下芸文ギャラリー運営事業	H18～	実施中	
55	まちなかギャラリー事業	H18～	実施中	
56	中心市街地における開業支援事業	H19～H23	実施中	
57	（仮称）高岡まちなか再生基金事業		未実施	
58	高岡御車山祭	従前より	実施中	
59	「高岡御車山」臨時山倉設置事業	H19～	実施中	
60	中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業	従前より	実施中	
61	中心商店街活性化イベント開催事業	従前より	実施中	
62	文化遺産活用イベント開催事業	従前より	実施中	
63	「世界文化遺産をめざす高岡市民の会」の活動	H18～	実施中	
64	フィルムコミッション事業	H13～	実施中	
65	シルバーサロン坂下小路運営事業	H13～	実施中	

66	まちづくり活動支援事業 （中心市街地商店街情報発信事業）	H18～	実施中
67	たかおか観光戦略ネットワーク事業	H17～	実施中
68	まちなか情報発信事業	H14～	実施中
69	コンベンション開催支援事業	H19～	実施中
70	まちの駅ネットワーク事業	H18～	実施中
71	コロッケのまちづくり事業	H16～	実施中
72	個別商店街の活性化事業	従前より	実施中
73	中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業	H19～H23	実施中
74	高岡ステーションビル整備調査事業	H23～	実施中
75	高岡御車山展示館建設事業	H19～	実施中
76	朝市・夕市の開催	従前より	実施中
77	元気たかおか未来会議の開催	H19～	実施中
78	末広町電停整備事業	H19	完了
79	LRV導入事業	H13～H20	完了
80	（仮称）第2SOHO事業者支援オフィス整備事業		未実施
81	コミュニティバス事業	H12～	実施中
82	「近世高岡の文化遺産群めぐり」巡行バス事業	H19～	実施中
83	レンタサイクル事業	H17～	実施中
84	高速バス運行事業	H19～H20	完了
85	中心市街地におけるオフィス開設支援事業	H20～	実施中
86	市道下関町4号線整備事業	H20～H22	完了
87	高岡駅交通広場整備事業（万葉線延伸部走行空間整備事業［（万葉線）路面電車走行空間、交通広場整備事業］）	H19～	実施中
88	市道坂下町大町線整備事業	H23	実施中
89	市道片原町本郷一丁目線整備事業	H23	実施中
90	高岡駅前東自転車駐車場整備事業	H22～	実施中
91	中心商店街賑わい再生事業	H22	完了
92	高岡駅周辺にぎわい創出事業	H23～	実施中

総事業数　92（うち完了　32　実施中　56　未実施　4）
※95.7%が完了あるいは実施中

（３）主な事業の成果と課題

①「歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大」に資する事業

ｉ）全体評価

１期計画に掲げた高岡古城公園整備事業や高岡大仏保存修理事業などのハード事業や、瑞龍寺ライトアップ事業や文化遺産群を活用した各種イベントなどのソフト

事業など様々な事業に取り組み、高岡にしかない歴史・文化資産の魅力を高め、交流人口の拡大を図ってきた。

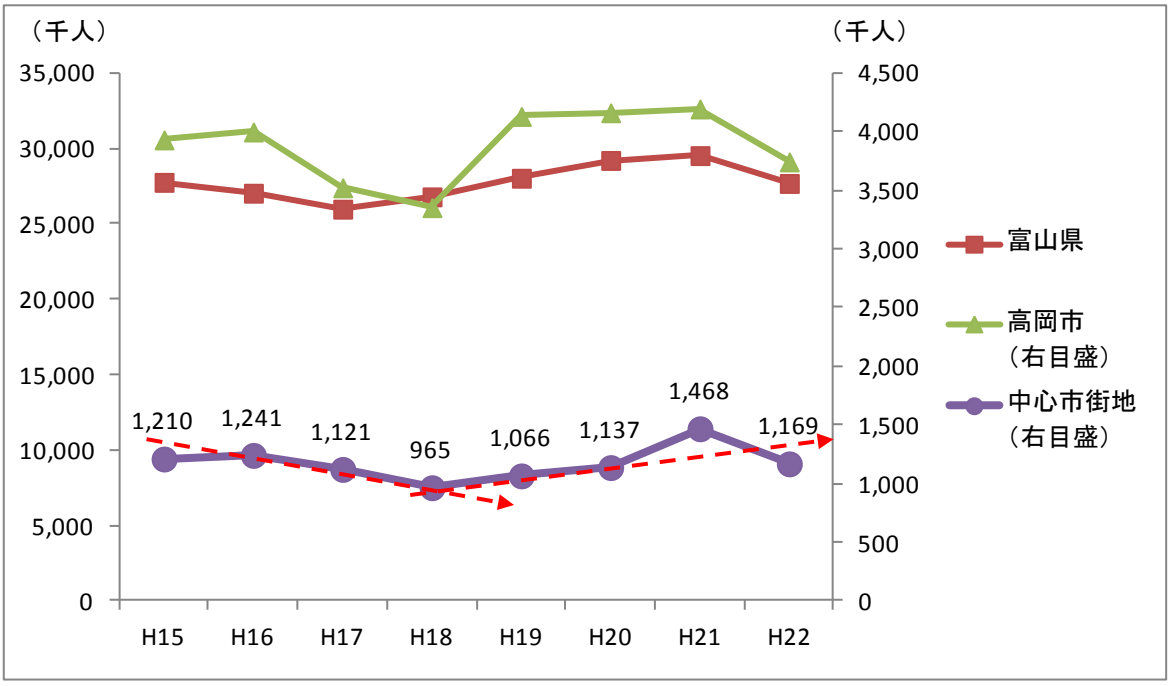
平成 22 年終了時点において、中心市街地における主要観光施設の観光客入込数は 1,169 千人に増加し、基準年となる平成 18 年との比較では 204 千人の増加（21%増）となり、目標数値に近い水準に達した。

特に、平成 21 年には、高岡の開町 400 年を祝う記念事業に年間を通じて取り組み、観光客入込数は、前年比 29.1%増、基準年比 1.5 倍の入込数となった。

また、平成 20 年には、東海北陸自動車道が全線開通し、サービスエリアや名古屋でのＰＲ活動を行ったことから、観光地を訪れる東海地方ナンバーの車が多く見受けられるなど、東海北陸自動車道の開通効果もあったと考えられる。

平成 22 年は、前年の反動減と全国的な観光旅行減少の影響から、対前年比で 20.4%の減少となったが、対基準年比では 21.1%増加しており、対基準年比でみると引き続き増加基調にある。

観光客入込み数の推移



中心市街地における主要観光施設ごとの観光客入込み数

	H18	H19	H20	H21	H22	施設目標値
古城公園	712,800	740,450	707,000	1,070,050	830,400	830,000
瑞龍寺	165,000	232,120	316,100	281,500	230,030	199,000
高岡大仏	79,000	72,000	96,000	99,000	93,700	119,000
山町筋（菅野家・土蔵造りのまち資料館）	8,361	11,292	13,609	13,643	10,502	20,000
金屋町（鋳物資料館）		10,178	4,207	3,943	4,116	5,000
施設計	965,161	1,066,040	1,136,916	1,468,136	1,168,748	※1,173,000

※主要観光施設入込数の目標値（122 万人）との差は、相乗効果による増加想定数

主要観光施設全てにおいて平成 18 年から平成 22 年の入込数が増加していることや、市民アンケートにおいて観光地としての魅力向上を評価する回答が多くみられ、市民の間で観光による中心市街地の活性化が実感できる状況になっていることを踏まえれば、「歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大」にかかる各種事業の実施は、それらが複合的に関連し、中心市街地活性化に大きく貢献したと評価することができる。

なお、平成 23 年については３月に発生した東日本大震災の影響により観光流動が全国的に減少しており、平成 23 年における観光客入込数は減少するものと考えられる。

ⅱ）主な事業の実施成果

ア．主要観光施設入込数増加に直接的に寄与する事業

■高岡開町 400 年記念事業

実施時期	平成 21 年度【完了】
事業概要	平成 21 年に高岡開町 400 年を迎えることから、記念事業を開催する。
実施成果	・開町 400 年である平成 21 年は、記念イベントを合わせ、古城公園の観光客入込数が 107 万人に達した（うち、記念イベントによる古城公園内入込数 25 万人）。 ・平成 21 年度のみのイベントではあるが、古城公園の価値の再評価の契機として位置付けられ、事業実施後の通年入込客数底上げに寄与した。 ・記念イベント入込数を除いた平成 20～21 年の観光客入込数増加分である 11 万人は、本事業による底上げ効果によるものである。

■高岡古城公園整備事業

実施時期	平成 19～20 年度【完了】
事業概要	都市公園でもあり、文化遺産群のひとつでもある高岡古城公園の園路整備、および駐車場の整備を行う。
実施成果	・平成 20 年度に駐車場および散策路の整備が完了し、翌年度の開町 400 年記念事業に寄与した。 ・平成 22 年度は、小竹藪駐車場、北口駐車場の合計で年間 27,000 台の利用につながった。 ・開町 400 年記念事業の来場者を除いた平成 21～22 年の増加傾向線に従った部分については、本事業による寄与が大きいと考えられ、年間 1 万人の入込数増加に寄与している。

■瑞龍寺ライトアップ事業

実施時期	平成 12 年度～【実施中】
事業概要	「瑞龍寺 100 万人構想」のもと、瑞龍寺のライトアップを行う。
実施成果	・夏季のライトアップ期間の延長、及び冬季の開催による瑞龍寺の魅力向

	上及びＰＲの取り組みにより、瑞龍寺の観光客入込数が増加（平成 22 年で対基準年比 65 千人増）しており、瑞龍寺の入込客数全体の底上げに寄与している。

■高岡大仏観光バス駐車場整備事業

実施時期	平成 19 年度【完了】
事業概要	日本三大仏・高岡大仏への団体観光客の増大及び滞留時間の延長を図るため、高岡大仏近隣に観光バス専用の無料駐車場を整備する。
実施成果	・本事業実施後の平成 19～20 年において、高岡大仏への観光客入込数が 24 千人増加しており、その後も同様の水準が維持されている。 ・また、平成 19～22 年において、御旅屋通り～高岡大仏への歩行者通行量が約 20%増加していることから、高岡大仏観光バス駐車場～定塚町１丁目～高岡大仏の観光ルートが形成されたと考えることができる。 ・平成 22 年における駐車場観光バス駐車台数と高岡大仏の月別入込数のとの間には強い正の相関関係がみられ、観光バス駐車場の整備が高岡大仏の入込数の約２割（約 18,000 人）に貢献していると考えられる。

■高岡大仏保存修理事業

実施時期	平成 19 年度【完了】
事業概要	日本三大仏・高岡大仏の劣化が進んだことから、保存修理事業を実施する。
実施成果	・本事業実施後の平成 19～20 年において、高岡大仏への観光客入込数が 24 千人増加しており、その後も同様の水準が維持されていることから、高岡大仏観光バス駐車場整備事業との複合効果により、高岡大仏への観光客入込数増加につながっている。

高岡古城公園及び瑞龍寺は、各種事業の取り組み効果により、観光客入込み数の目標値に達した。

高岡大仏の観光客入込み数増加にかかる事業については、駐車場方向からの新たな動線の形成や保存修理事業を通じた魅力向上、さらには高岡市全体の観光客入込数底上げによって一定の成果を見たものの、その増加ペースは当初見込みを下回る水準となっており、目標を達成できなかった。

この要因としては、基準年である平成 18 年との比較において、平成 22 年の高岡大仏観光客入込み数は 18.6%増加しているものの、同期間における瑞龍寺の増加率 39.4%の約半分の水準にとどまっており、瑞龍寺の増加分が高岡大仏まで十分に回遊するに至らなかったことが挙げられる。

■山町筋重要伝統的建造物群保存地区保存修理事業

実施時期	平成 13 年度～【実施中】
事業概要	山町筋重要伝統的建造物群保存地区内において、伝統的な土蔵造りの町並みを保存するため、伝統的建造物の修理事業及び非伝統的建造物の修景事

	業等を実施する。
実施成果	・平成 19 年度以降の保存修理個所数（13 カ所）と観光客入込数との間に正の相関関係がみられ、基準年～平成 22 年の山町筋への観光客入込数増加分約 2,200 人は本事業が貢献したと考えられる。

■重要文化財菅野家住宅運営事業

実施時期	平成 10 年度～【実施中】
事業概要	山町筋重要伝統的建造物群保存地区における唯一の重要文化財建造物として、建物の一部を公開する。
実施成果	・山町筋における重要な観光拠点として機能し、高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業と複合して平成 22 年は 10,502 人を集客した。

■高岡市土蔵造りのまち資料館運営事業

実施時期	平成 14 年度～【実施中】
事業概要	山町筋重要伝統的建造物群保存地区において、土蔵造りの建造物全体を公開している唯一の建造物として、施設を公開する。
実施成果	・山町筋における重要な観光拠点として機能し、重要文化財菅野家住宅運営事業と複合して平成 22 年は 10,502 人を集客した。

■山町筋周辺の市道整備（市道鴨島町木舟町線整備事業、市道木舟町大坪町一丁目線整備事業、市道堀上町金屋町線整備事業、市道堀上町中島町線整備事業、市道片原横町川原本町線整備事業、市道片原町川原町１号線整備事業、市道片原町川原町２号線整備事業、市道坂下町大町線整備事業、市道片原町本郷一丁目線整備事業）

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	山町筋重要伝統的建造物群保存地区において、快適な町並み散策が可能となるよう、景観に配慮した道路整備を行う。
実施成果	・市民意識調査における「高岡の伝統・歴史・文化を感じさせる町並みや良好な景観が形成されている」という問いに対し、33%が肯定的に評価、39.2%が改善しているとそれぞれ評価しており、山町筋のイメージ形成に貢献している。

■高岡御車山保存修理事業

実施時期	平成 17 年度～【実施中】
事業概要	高岡市を代表する祭礼であり、重要文化財である高岡御車山祭の保存・継承を図るため、７基ある高岡御車山の計画的な保存修理を行う。
実施成果	・御車山の保存・伝承は高岡御車山祭の根幹をなすものであり、御車山の保存修理により、御車山が色鮮やかに復元され、その華麗さが一層際立ち、御車山の魅力向上に寄与した。 ・平成 22 年度において、高岡御車山祭には 150 千人が来場しており、中

	心市街地の賑わい創出に大きく貢献している。

■「高岡御車山」臨時山倉設置事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	高岡御車山の見学を天候に左右されずに行えるようにするとともに、前日の夜から展示しライトアップする宵祭りを実施する。
実施成果	・御車山祭り前夜から御車山をライトアップし、光り輝く美しい御車山として展示することで、御車山に施された金工・漆工等の優れた工芸技術による華麗な装飾を間近で見ることができることとなり、祭礼の前夜に各山町で行われる宵祭を見て感じる機会ともなるなど、御車山祭りの魅力を一層高めるとともに、多くの人々が山町筋を巡る効果があった。 ・御車山の来場者数が増加していることから、誘客要因として貢献した。

山町筋においても、上記のとおり観光客入込数が増加しており、各種事業の実施が一定の成果をみたが、１期計画における目標水準を下回っている。

この要因としては、計画期間中、無電柱化事業が実施され景観整備中だったことが大きく影響したものと推測される。また、１期計画において、山町筋の観光客入込数の見通しは昭和 62 年～平成 3 年の瑞龍寺の入込数の推移を参考に設定したが、当時既に国宝級の価値を有していた瑞龍寺と異なり、山町筋は通り全体が見どころであるなかで、観光施設が菅野家および土蔵造りのまち資料館といった比較的小規模の施設が点在しており、核となる拠点施設が不足していることが考えられる。

■高岡市鋳物資料館運営事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	高岡鋳物発祥の地である金屋町において、市内の鋳物に関する資料を収集・展示する「鋳物資料館」を設置・運営する。
実施成果	・平成 22 年は 4,116 人を集客しており、金屋町における誘客拠点として観光客入込数増加に貢献している。

金屋町においては、鋳物資料館開館初年の平成 19 年は、施設開館効果や無料開放期間を設けたため、観光客入込み数が１万人を超えたが、平成 20 年～平成 22 年は、4,000 人前後の横ばいで推移し、目標数値を下回っている。

金屋町の伝統的な町家や石畳通りの風情を楽しむ人や、若手のものづくり作家が集い、作品を展示する「金屋町金属工芸工房・かんか」が開店し、金屋町に見どころが増えたことにより、通りを歩く少人数旅行客が見受けられるようになったが、金屋町周辺には観光バスを停める駐車場が無く、金屋町を団体ツアーが訪れ難いことが、入込み数の伸び悩みの要因と推測される。

■大学連携による伝統産業再生事業［金屋町楽市開催事業］

実施時期	平成 20 年度～【実施中】
事業概要	高岡の地場産業である銅器工芸を生活空間に生かした、生活、工芸、産業が同居するゾーンミュージアムイベントを、高岡鋳物発祥の地である金屋町で開催する。
実施成果	・来場者数は、平成 20 年度 10,000 人、平成 21 年度 22,000 人、平成 22 年度 23,600 人と年々増加しており、金屋町における賑わい創出はもとより、本市のイメージアップに繋がった。 ・平成 23 年度は、東京駅前にある丸ビル１階マルキューブで、金屋町楽市スタイルの工芸作品の展示・販売イベントを開催した。このイベント来場者が金屋町楽市を訪れたり、首都圏からのバスツアーが人気を博したりするなど、首都圏でのＰＲ効果が観光客入込み数増加に貢献した。

イ．主要観光施設入込数増加に間接的に寄与する事業

■文化遺産群を活用したイベント実施に関する事業

●中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業（高岡獅子舞大競演会、高岡七夕まつり、高岡万葉まつり、日本海高岡なべ祭り）

●文化遺産活用イベント開催事業（瑞龍寺ライトアップ、八丁道おもしろ市、たかおか朝市、大仏ごりやく市、山町筋土蔵造りフェスタ、山町筋の天神様祭、山町筋のひなまつり、御印祭）

●中心商店街活性化イベント開催事業（大仏ごりやく市、WE ARE LIVE ﾅﾝｹ!?、高岡御車山祭後のイベント、お買い物ラリー）

実施時期	従前より【実施中】
事業概要	中心市街地における４つの大型イベント開催、中心市街地に点在する各文化遺産の特性を生かしたイベントを展開することにより、主要観光地点への誘引を図る。
実施成果	・中心市街地内で開催される大型イベント・文化遺産活用イベントには毎年 800 千人が来場しており、実施期間中における中心市街地の賑わい創出に繋がった。 ・イベント来場者数と主要地点観光客入込数との間には強い正の相関関係がみられ、末広開発㈱まちづくり事業部（まちづくり会社）が主体となったイベント実施による観光客入込数増加への貢献度は高い。

■文化遺産群の周辺環境整備に関する事業

●「８月のクリスマス」記念館運営事業

実施時期	平成 17～19 年度【完了】
事業概要	高岡市内で撮影された「８月のクリスマス」の記念館として、撮影に使われた施設（映画での名称：鈴木写真スタジオ）の運営を行う。
実施成果	・「８月のクリスマス」の撮影で使われたバイク、衣装等を展示し、平成 19 年度は約 4,000 人が来館し、観光客入込に寄与した。

●フィルムコミッション事業

実施時期	平成 13 年度～【実施中】
事業概要	高岡市内における映画、ドラマ等のロケ誘致および市内ロケ支援等を実施する。
実施成果	・撮影場所の紹介やエキストラの提供等で協力を行い、映画やドラマ等の撮影に、年間 10 件～20 件を誘致している。 ・市内での撮影に協力した「８月のクリスマス」では、撮影地めぐりをする映画ファンが訪れ、「８月のクリスマス」記念館には、平成 19 年度は約 4,000 人が来館し、観光客の増加に寄与した。 ・市民意識調査において「マンガ、コロッケ、映画ロケ地などの新しい資源を活かしたまちづくりが行われている」との問いに対し、約３分の１の市民が肯定的評価、改善評価をしており、実施成果が市民の間で実感されている。 ・映画やテレビ等で高岡市が紹介され、高岡市の知名度アップ、イメージ向上、さらには観光客入込数増加に貢献している。

■文化遺産群の回遊性向上に関する事業

●高岡駅南北自由連絡通路整備事業

実施時期	平成 16～23 年度【完了】
事業概要	高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化に一体的に取り組む中で、現駅の交通機関相互の乗換利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、南北自由連絡通路の整備を行う。
実施成果	・平成 23 年８月に供用開始され、本事業により、北陸本線によって分断されていた瑞龍寺～古城公園・高岡大仏・山町筋・金屋町間の回遊性が向上し、観光客入込数増加に大きく寄与することが期待される。

●高岡駅北口歩行者専用道（人工デッキ）整備事業

実施時期	平成 16～24 年度【実施中】
事業概要	高岡駅周辺整備事業として現駅周辺の機能強化に一体的に取り組む中で、現駅の交通機関相互の乗換利便性の向上、南北市街地の連携強化、安全で快適な歩行空間の確保等を図るため、北口歩行者専用道の整備を行う。
実施成果	・高岡駅南北自由連絡通路整備事業が完了し、今後、本事業の整備が進むことで、北陸本線によって分断されていた瑞龍寺～古城公園・高岡大仏・山町筋・金屋町間の回遊性が向上し、観光客入込数増加に大きく寄与することが期待される。

●レンタサイクル事業

実施時期	平成 17 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地における買物と観光に便利な有料のレンタサイクルを、高岡駅

	北口および駅北側の文化遺産群に配置する。
実施成果	・本事業開始以降、利用者は増加を続けており、平成 22 年度は延べ 2,070 人が利用した。 ・利用者アンケート調査では、観光目的での利用者は、１人当たり 2.5 カ所の中心市街地内観光地点を訪問しており、延べ約 3,000 人の中心市街地観光客入込数創出に貢献している。

●観光バス市営駐車場料金補助事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	大型バスが駐車可能な市営駐車場（高岡中央、御旅屋）を利用する観光バス事業者に対し、利用料金の助成を行う。
実施成果	・本事業開始以降、毎年 500 台程度が利用し、平成 22 年度は 562 台の利用があった。 ・本事業により、それまで大型バスによる団体観光のルートに乗らなかった高岡市中心市街地内の観光地点がルート内に組み込まれ、約 30,000 人の観光客入込数増加に寄与したと考えられる。

●「近世高岡の文化遺産群めぐり」巡行バス事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	ＪＲ高岡駅を挟み、南北に分散している文化遺産群を効率的に巡回するため、１日乗車券制による文化遺産群をつなぐバスを運行する。
実施成果	・本事業開始以降、乗車数は増加傾向にあり、平成 22 年度は 4,583 人が利用している。 ・バス利用者調査から利用者のうち約半数は市民となっているが、残りの市外利用者については、巡行バスを利用することで行動範囲が広がり、観光訪問地点が増加することによって、1 人当たり 3 か所程度訪れていると見込まれ、延べ約 7,000 人の観光客入込数増加につながった。（3 カ所訪問は平成 18 年「観光客アンケート調査」より）

■中心市街地の情報発信等に関する事業

●コロッケのまちづくり事業

実施時期	平成 16 年度～【実施中】
事業概要	コロッケをまちづくりのツールとして各種事業を実施する。
実施成果	・本事業によるイベントの開催、他地域イベントへの参加、新商品の開発等を通じ、中心市街地への誘客および知名度向上に寄与している。 ・平成 21 年に実施した「高岡Ｂ級グルメ博」には２日間で約 80,000 人の来場があり、中心市街地の賑わい創出に大きく寄与していることや、市民意識調査において約３分の１の市民が「マンガ、コロッケ、映画ロケ地などの新しい資源を生かしたまちづくりが行われている」の問いに対して評価が高いことから、高岡市の知名度、イメージ向上、さらには観

	光客入込数増加に対しても効果が表れている。

●コンベンション開催支援事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	コンベンション開催に伴い、県外から高岡市内に宿泊する者およびコンベンション開催費用の一部に対して支援を行う。
実施成果	・本事業を通じたコンベンション誘致により、年度によってばらつきはあるものの、2,000～5,000 人の県外客が高岡市に宿泊し、平成 22 年度は 2,105 人が本制度を利用した。 ・コンベンション開催支援は、高岡来訪機会の創出となり観光客入込数の増加がもたらされている。

●その他の情報発信事業

中心市街地商店情報発信事業、たかおかナビプロジェクト、たかおか観光戦略ネットワーク事業、まちなか情報発信事業

実施成果	・これらの情報発信事業の実施が、高岡の情報を気軽に得ることができる手段となり、市民意識調査における「中心市街地の情報発信」の効果に対して約２割の市民が肯定的で、改善されている評価をしており、肯定的評価の割合は平成 18 年の前回調査時点よりも８ポイント上昇していることからも、中心市街地の観光スポットやイベント等の認知度向上、イメージアップに貢献した。

ⅲ） ２期計画に向けた課題

１期計画において、観光イメージアップおよび中心市街地への観光客の呼び込みに一定の成果を上げており、各種取り組みの有効性が確認された。２期計画においては、１期計画で効果の認められた事業を継続するとともに、高岡御車山会館建設事業など、観光地の魅力向上に繋がる核となる施設の整備に取り組む必要がある。

同時に、各地点間の回遊性が弱く、必ずしも期待通りの相乗効果が発揮されなかった点を踏まえ、２期計画においては、各拠点間を連結する機能をハード、ソフトの両面において充実させ、観光客が中心市街地内の各観光施設を回遊する仕組みを構築していく必要がある。

さらに、高岡市歴史的風致維持向上計画の国からの認定（平成 23 年 6 月）を契機として、歴史的建造物や伝統文化、工芸技術といった本市固有の特長を最大限に活かした取り組みを一層強化する必要がある。

②「まちなか居住の推進」に資する事業

ⅰ）全体評価

現行計画策定当初の予測を上回るペースで人口の自然減、および社会減が発生し、

平成 22 年度終了時点において目標数値を下回っている。

特に、全市の自然減の 1/4 に相当する自然減が中心市街地において発生したこと、及び若年層、子供同居世帯の流出が進んだと考えられることから、まちなか居住支援事業による居住者の増加・下支え（約 200 人）、支援事業によらない集合住宅の建設による人口増加・下支え（下関地区で約 200 人）効果が損なわれる結果となった。

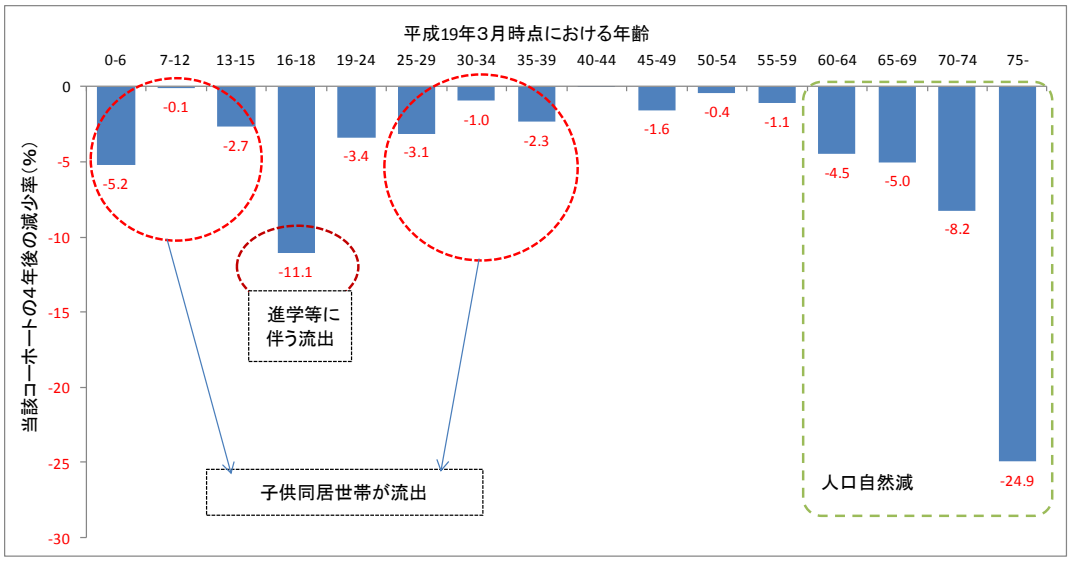
「まちなか居住支援事業」にかかる各種事業の実施は、中心市街地における居住人口の下支えに一定の役割を発揮したと考えられるものの、全体として中心市街地の居住人口を増加させるには至らなかった。しかし、平成 23 年度に建設を開始した「まちなか共同住宅建設促進事業」による２棟のマンションが平成 24 年度に完成することから、その効果の発現が待たれる。

高岡市および中心市街地における人口の推移

	高岡市全体	中心市街地
平成 18 年度末居住人口	181,171 人	17,597 人
平成 22 年度末居住人口	176,945 人	16,360 人
平成 18 年度末→22 年度末人口減少率	▲2.4%	▲7.0%
自然減	▲1.4%	▲3.7%
社会減	▲1.0%	▲3.3%

人口増加に至らなかった原因としては、中心市街地では高齢者の人口割合が全市平均よりも高く、自然減が発生しやすい状況にあることや、２０代～３０代と未就学児～高校生の減少も発生していることから、子供と同居する世帯が郊外へ転出していると推測される。住宅地の地価は、近年下落が進み、むしろ隣接地区よりも安くなっているが、中心市街地では、狭隘な土地に古い住宅が密集し、住居と空き家が混在していることに加え、地籍境界の未確定、借地権や固定資産税等の問題により、まとまった広さの敷地を確保することが困難なことから宅地開発やマンションや集合賃貸住宅の建設が進んでいない。

中心市街地が含まれる６地区における年齢階層による増減率



※平成 19 年 3 月から４年間のコーホートによる増減率

なお、中心市街地の居住人口が減少する一方で、市民意識調査結果、まちなか居住者アンケート調査結果では、「歩行環境」「景観整備」といった市街地の居住環境について高い改善評価がなされている。これらは直接的な居住者増加の効果をもたらすものではないが、各種取り組みの実施によるまちなかにおける居住環境の改善は地域住民に浸透しており、着実な成果を上げている。

また、平成21年１月の高岡サティ閉店による影響を強く受けた定塚地区を除き、中心市街地において買物等日常生活上の利便性が向上したとする回答が多くみられ、中心市街地の空き店舗数の減少や朝市・夕市等の実施がまちなか居住者の生活利便の提供に貢献していると評価することができる。

ⅱ）主な事業の実施成果

ア．まちなか居住の推進に直接的に寄与する事業

■まちなか住宅取得支援事業

実施時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	高岡市が認定した「まちなかの区域」で、一戸建て住宅の新築や建売住宅・分譲マンションの購入を行う個人に対し、借入金額の５％（限度額100万円）の補助を行う。 なお、平成23年度からは、中古住宅・中古マンションの購入および隣接土地購入も支援対象に追加した。
実施成果	・本事業に対しては、平成23年９月時点で42件の利用申請があり、制度利用者の平均世帯人員数は3.8人となっていることから、約160人の居住人口増加・下支えに寄与している。

■まちなか共同住宅建設促進事業

実施時期	平成19年度～【実施中】
事業概要	高岡市が認定した「まちなかの区域」で、一定要件を踏まえた４戸以上のアパート・マンションを建設した者に対し、１戸当たり100万円（限度額5,000万円）の補助を行う。
実施成果	・旧済生会病院跡地での分譲マンション建設及び旧家具店跡地での賃貸マンション建設が行われており、平成24年夏に完工予定のため、事業の効果は、２期計画期間中に発現する。

■優良住宅団地支援事業

実施時期	平成13年度～23年度【完了】
事業概要	高岡市が認定した優良住宅団地において、土地を取得し住宅を建築する者に対し、取得した土地の面積に応じ、支援を行う（１㎡当たり4,400円、限度額100万円）。
実施成果	・中心市街地内のトークタウン中島において19件の利用申請があり、50人程度の中心市街地人口増加・下支え効果があった。

現時点において、まちなか居住支援に係る各種事業による増加・下支えが約200人、支援によらない増加（下関地区）が約200人と推定され、増加・下支え要素は合計で約 400 人となっている。共同住宅の建設は１期計画期間内には終了せず、効果は２期計画の期間内に現れる。

イ．まちなか居住の推進に間接的に寄与する事業

■池の端通り都市景観形成事業

実施時期	平成12年度～20年度【完了】
事業概要	「高岡市町並み保存・都市景観形成条例」に基づき指定された池の端通り都市景観形成地区において、良好な都市景観の向上を図るための家屋の修繕、緑化等に対して支援を行う。
実施成果	・事業開始から 26 件の制度利用があり、中心市街地の居住人口が減少する中、対象地区となっている本丸町の人口は平成 17 年に下げ止まりを見せ、平成17年３月～23年３月の間に10人増加したことから、人口増加に寄与した。

■朝市・夕市の開催

実施時期	従前より【実施中】
事業概要	地産地消の推進と中心市街地への来街者の増大、まちなかへ居住する人の生鮮品等の供給のため、中心市街地において朝市、夕市を開催する。
実施成果	・市民意識調査では、中心市街地に居住する回答者の約１割が１カ月に１回以上朝市・夕市に行くと回答し、朝市や夕市の実施が中心市街地居住者の日常生活利便を高める機会として機能している。

ⅲ）２期計画に向けた課題

中心市街地における歩行者通行量と居住人口との間には強い正の相関関係が見られることから、居住者を増やすことが賑わい創出のための不可欠の要素である。したがって、２期計画においても、まちなか居住の推進には引き続き取り組んでいく必要がある。

中心市街地では、下関地区を除いて高齢者の人口割合が３割以上となっていることから、人口の自然減少が発生しやすい環境にはあるが、各種市の開催や日常生活に必要な店舗誘致を通じて生活利便を提供し、生活利便低下による高齢者の域外流出を防止するとともに、１期計画期間において、自然減以外にも若年層、子供同居世帯の流出が進んでいると推測される状況を踏まえ、これらの世帯の居住に適した魅力ある商業空間や子育てしやすい環境などの住環境の創出を引き続き実施していく必要がある。

地価が相対的に低下していることや、居住環境の改善が進んでいることを強みと

して活用し、平成24年夏には、分譲マンションと賃貸マンションが完工されることや、平成23年11月に、高岡サティ跡地にホームセンターと食品スーパーを複合した大規模商業施設がオープンし買物利便性が向上したことを、まちなか居住の起爆剤として、まちなかでの更なる住宅建設を２期計画において波及させていくことが求められる。

③「中心商店街賑わい創出」に資する事業

ｉ）全体評価

ア．中心商店街（６地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値

平成22年における中心商店街（６地点）の歩行者・自転車通行量は、基準となる平成18年比で322人/日（平日・休日平均）増加しており、平成22年時点では目標数値に到達していないものの、長期的な減少傾向から歯止めが掛かっている。

地点別にみると、駅地下街および高の宮通りの2地点で基準年比約１割の減少、末広通り東側および末広坂通りで基準年比約6%の減少、御旅屋通りが基準年比ほぼ横ばいで推移する中、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオを結ぶ末広通り西側の通行量が1.7倍に増加しており、かつ長期的に増加基調にある。

中心商店街（６地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量推移

地点	平成18年	平成22年	増減率
駅地下街	2,620人	2,327人	▲11%
末広通り（東側）	1,704人	1,608人	▲6%
末広通り（西側）	1,292人	2,141人	＋66%
高の宮通り	1,013人	914人	▲10%
末広坂通り	2,059人	1,981人	▲4%
御旅屋通り	2,638人	2,677人	＋2%
６地点合計	11,326人	11,648人	＋3%

他の地点の通行量が増加しないなか、末広通り西側のみが大幅に増加しており、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオ間の回遊性が高まっていることから、「末広町電停整備事業」、「市営オタヤグリーンパーキング設置事業」、「ウイング・ウイング高岡運営事業」などの２地点間の回遊性向上に直結する事業については、歩行者・自転車通行量の増加に大きく貢献したと評価することができる。

また、中心市街地における各種イベント、朝市・夕市・フリーマーケットは、中心市街地の賑わいを創出している要素として評価が高いことや、開業支援を通じ、中心商店街における最大誘因である「買物」「飲食」にかかる店舗数の維持・増加が図られ、中心市街地内の通行量が下支えされている状況から、中心市街地への来街を促進するための機能充実の取り組みについても、歩行者・自転車通行量の維持・増加に貢献していると評価することが可能である。

他方、「末広町地内集合住宅整備事業」や、「第２SOHO事業支援オフィス整備事業」、

「中心市街地におけるオフィス開設支援事業」は未実施または申請がなかったこと、中心市街地内の居住人口が減少していることなど、中心商店街の来街者数自体を直接底上げする事業については、十分な成果が得られなかった。

イ．中心商店街（４商店街）における空き店舗数

１期計画実施後、平成 22 年 10 月までに中心商店街（４商店街）の空き店舗数は 46 店舗から 25 店舗に減少し、目標値を上回る水準となっており、大きな成果を上げた。

特に、「中心市街地における開業支援事業」により、空き店舗の営業店舗化、既存店舗の空き店舗化防止が図られ、飲食店や若者向けファッション、雑貨店といった新たなジャンルの店舗が開業するなど中心商店街の魅力向上に繋がった。また、高岡商工会議所による「たかおか屋」や、末広開発㈱による「町衆スタジオ」のほか、高岡のものづくりや伝統産業を紹介するクラフトショップ「D.front」、「テクテクたかおか」など、高岡の歴史・伝統・文化が感じられる特徴ある店舗が中心市街地で展開されるなど、開業支援制度によらない店舗・施設の立地が促進されるという波及効果をもたらしている。

また、中心商店街の核施設である御旅屋セリオにおいても、開業支援事業によってテナント入居が促進され、御旅屋セリオの拠点性の維持・向上に貢献している。

ⅱ）主な事業の実施成果

ア．中心商店街（６地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量に寄与する事業

■ウイング・ウイング高岡運営事業

実施時期	平成 16 年度～【実施中】
事業概要	ＪＲ高岡駅前において、公共公益施設・ホテル・飲食・業務による複合施設の運営を行う。
実施成果	・平成 16 年４月に開設し、１日当たり約 3,400 人の利用者がある。 ・平成 23 年の調査では、ウイング・ウイング高岡の利用者のうち、36%が末広通り側の出入り口を利用していることから、中心市街地の回遊拠点として、少なくとも 1,200 人/日分と、末広通り西側の歩行者通行量の半数以上がウイング・ウイング高岡を起点に生み出されていることになり、中心商店街の歩行者通行量増加に対する貢献度は極めて高い。

■末広町電停整備事業

実施時期	平成 19 年度【完了】
事業概要	万葉線の利便向上のため、中心市街地の中心部に新たな電停を整備する
実施成果	・平成 20 年、および平成 21 年の調査では１日当たりの利用数は 100 人程度となっており、利便性が向上した。 ・歩行者通行量調査において、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオ間を結ぶ主要ルートである末広通り西側の通行量のみが大きく増加していることから通行量増加に寄与した。

■市営オタヤグリーンパーキング設置事業

実施時期	平成 19 年度【完了】
事業概要	第三セクター・オタヤ開発が所有する大型駐車場を市営化することで、中心市街地に立地する他の市営大型駐車場と回数券等の共通化を可能とし、利便性を高める。
実施成果	・通年運営がなされた平成 20 年度以降、年間 70,000 台以上が利用しており、中心市街への来街に資する施設として機能しており、平成 22 年度は 71,040 台（１日当たり約 200 台）の利用があった。 ・平成 23 年の来街者調査では、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオの両拠点間の双方向回遊性は 13.7%であることから、1 台当たり平均乗車人員数に基づく歩行者通行量創出効果は約 100 人と推定され、１期計画策定当初に見込んだ水準にほぼ近い効果を生み出している。

■駅地下芸文ギャラリー運営事業

実施時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	ＪＲ高岡駅前地下街において、まちづくり会社・末広開発㈱が運営主体となり、富山大学芸術文化学部と末広開発㈱、市が連携し、大学の教官や学生等が企画・立案した企画展の開催や、高岡発の新商品の展示・販売等を行う。
実施成果	・年間約 30 回の企画展を開催し、企画内容も、大学生の授業成果の発表や大学教員・生徒をはじめ、地元作家や企業の作品の展示・販売に加え、子ども向けのものづくり体験教室を行うなど、子どもから大人まで様々な人が楽しめる企画を行った。 ・これまで地下街では姿の見えなかった大学生などの若者が多く訪れるなど、年間 7,000 人の来場を創出し、地下街の魅力の向上と賑わい創出に効果を上げている。

■中心商店街活性化センター「わろんが」運営事業

実施時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	主に中高年齢層を対象とした商品の販売や講座、イベントの開催等を行い、中心商店街における賑わい拠点施設を運営する。
実施成果	・平成 18 年にオープンし、カフェ機能を持つギャラリーとして、各種作家の展覧会を実施するとともに、地場産品の販売市やソフト事業を展開し、女性客を中心に、来街機会の促進に効果を上げている。 ・本施設の前で運営される「おたや市」等のイベントには多くの来場があり、賑わい創出に寄与している。

■工房「手わざ」運営事業

実施時期	平成 15 年度～【実施中】

事業概要	末広町商店街内で、伝統工芸品の高岡銅器の彫金技術を公開する工房を運営する。
実施成果	・市民意識調査において「伝統的なものづくりの特色を生かしたまちづくりが行われている」との問いに対し、22%が改善されている評価をしていることから、本事業の実施が市民に定着してきており、ものづくりを見て楽しめる街中の施設として成果を上げている。

■まちなかギャラリー事業

実施時期	平成 18 年度～【実施中】
事業概要	末広町通り、御旅屋通りの各商店のショーウィンドウを活用し、国指定伝統的工芸品である高岡銅器・高岡漆器を中心とした作品の展示を行い、ものづくりのまちの雰囲気を醸成する。
実施成果	・工房「手わざ」運営事業と同様、市民意識調査において「伝統的なものづくりの特色を生かしたまちづくりが行われている」との問いに対し、22%が改善されている評価をしていることから、本事業の実施が市民に浸透し、成果を上げている。 ・また、各商店に展示された工芸品を見て回り、気に入った工芸品を購入した外国人観光客もいることから、通行量の増加に寄与している。

イ．中心商店街（４商店街）における空き店舗数の減少に寄与する事業

■中心市街地における開業支援事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	中心市街地における特徴あるまちづくりを推進するため、地域に応じた業種による開業を支援する。空き店舗を活用する開業者への家賃補助と改装費補助、空き店舗所有者への改装費補助を行い、新規開業を促進する。
実施成果	・この支援制度を活用した中心市街地の開業は 32 件あり、中には和風カフェやネイルサロン、アロマ専門店などの若者向けのおしゃれな店舗も開店している。中心市街地の４商店街では、平成 22 年度までに、この支援制度を活用して８件が開業し、本事業の実施が空き店舗の店舗化に貢献した。 ・特に、平成 20 年度の開業支援制度の見直しにより、中心商店街での店舗改修補助の対象を新規開業者だけでなく店舗所有者にも拡充したことにより、貸し手に対する改修支援が 6 件あり、制度を活用した新規開業の促進に結びついた。 ・なお、中心商店街の４商店街の路面店の空き店舗解消ではないが、本制度により御旅屋セリオにおけるテナント新規開業も 12 件あり、御旅屋セリオの拠点性維持・向上にも大きく貢献している。

■中心市街地における既存店舗リニューアル支援事業

実施時期	平成 19 年度～【実施中】
事業概要	老朽化が進んでいる既存店舗の改善を図るため、店舗のリニューアルを支援する。
実施成果	・平成 22 年度までに４件の利用があり、本事業によって既存店舗の空き店舗化防止に一定の役割を発揮した。

ⅲ）２期計画に向けた課題

ア．中心商店街（６地点）における平日・休日の歩行者・自転車通行量の平均値

通行量による賑わい創出においては、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオ間の回遊促進のための事業は効果が上がっており、拠点間の回遊性向上に向けた取り組みの有効性・重要性が確認された。したがって、回遊促進に向けた取り組みを継続実施する必要がある。特に、高岡駅の南北を結ぶ南北自由通路が開通したことにより、今後はこれまで十分でなかった駅南北の回遊促進に取り組み、回遊の範囲を広げていくことが重要である。

また、中心市街地への重要な誘引機能として「買物」「飲食」「仕事」といった要因が挙げられる。買物・飲食に関する店舗数については、開業支援制度等の実施により１期計画において一定の成果をあげたものの、業務機能（仕事）については十分な成果を上げることができず、通行量増加に結び付かなかった。このため、飲食を含めた店舗数の増加（店舗誘致）に引き続き取り組むとともに、事業所の増加を図るための支援策の拡充に取り組む必要がある。

さらには、中心市街地内の居住者の減少が歩行者通行量の伸び悩みの要因の一つとなっており、まちなか居住の推進に取り組んでいく必要がある。

イ．中心商店街（４商店街）における空き店舗数

中心市街地において賑わいが感じられるようになるには、来街者数の増加が重要なポイントとなるが、中心商店街における歩行者・自転車通行量と中心商店街の営業店舗数には強い正の相関関係がみられ、店舗数を増やすことが賑わい創出に向けて不可欠の要素である。

１期計画開始以降、中心商店街では、開業支援事業を活用した飲食店や物販店の開業があり、中心商店街（４商店街）でも、衣料品店や和風カフェ、ネイルサロンが開店するなど空き店舗数は減少し、開業支援事業を中心にした取り組みに一定の成果があった。一方で、店主の高齢化などによる閉店により商店数は減少したため、市民の意識の中では中心市街地の賑わい創出を感じることができないといった評価もある。

したがって、２期計画においては、引き続き開業支援事業に積極的に取り組み、制度の継続・拡充を図りながら、中心商店街での開業意欲を喚起し、空き店舗の減少による中心市街地の賑わい創出を図る必要がある。

〔４〕現状分析と課題の整理

（１）現状分析

中心市街地が置かれている状況、および課題については、１期計画策定当時からそれほど大きく変化してはおらず、１期計画と共通する現状認識のもと、これまでの事業実施成果および今後予想される変化を踏まえたうえで２期計画に結び付けていく必要がある。

１期計画と共通する現状認識を整理すると以下のとおりである。

分析項目	内　　容
１．高岡市及び中心市街地の位置づけ	①道路網の整備が進んでいることに加え、富山市や金沢市をはじめ周辺都市との距離は全て 50 キロ圏内と移動が容易であり、日常の生活圏内として捉えられる。 ②国道や能越自動車道などが市域を縦横に走り、中心市街地内にあるＪＲ高岡駅を中心にＪＲ、万葉線、バス等の公共交通を中心とした呉西の交通結節点である。 ③人口の市外転出と車社会の進展に伴い、呉西地域における高岡市の中心市街地が保有する中心性は、希薄化の傾向にある。 ④高岡市全域より高齢化率が高く、また、若年層や子育て世帯の流出により、人口は一貫して減少している。 ⑤全市および中心市街地の双方において、比較的立地の多い製造業を含めて全産業の事業所数が減少傾向にあり、特に中心市街地では減少が著しい。
２．歴史文化資産の活用	①県内唯一の国宝・瑞龍寺をはじめ、文化財保護法に基づく指定文化財等の歴史・文化資産の観光資源が数多く集積している。 ②市民意識調査では、中心市街地の現状として歴史・文化資産を生かしたまちづくりに対し高い評価を得ている。 ③１期計画により、観光地としての知名度やイメージは向上しているが、観光拠点相互の連携による回遊性向上の仕掛け、滞在時間を延長する仕掛け（例：飲食店、土産店の立寄り場所の集積）が十分ではなく、歴史・文化が多数集積する強みが十分に発揮されていない。
３．市街地の整備改善	①高岡市の中心市街地は、昭和 30 年代から 50 年代にかけて大規模な都市基盤整備事業が実施され、現在の中心市街地が形作られていった。その後、平成以降に、中心市街地の域内で４つの再開発事業により拠点整備が行われた。 ②昭和の時代に整備された防災街区等の施設は老朽化し、その後、景気の停滞等の問題等から、まちの新陳代謝が進んでいない状況である。

4．都市福利施設の向上	①中心市街地には、小規模な行政サービス機関、医療機関のほか、高岡古城公園やウイング・ウイング高岡、子育て支援センターなどの拠点性の高い市民の憩い・学習の場が整っており、中心市街地において一定水準のサービスは提供されている。
5．まちなか居住の推進	①中心市街地の空き地、空き家は増加傾向であり、人口減少も引き続き進んでいる。 ②現在、まちなかに居住している者は、まちなかでの生活を住みよいと感じている人が多く、できればまちなかでの居住を続けたいという意向もあわせ持っている。 ③空き地や空き家が点在し、まとまった土地を確保できないため、宅地開発が進まない。
6．高齢化社会への対応	①中心市街地では、全市の傾向と比べて高齢化が進展しており、今後も全市を上回るペースでの人口減少が予想され、活力の低下が懸念される。
7．中心商店街の活性化	①商店数、年間販売額など、商業活動を示すすべての指標において中心市街地（商業集積）の占める割合は減少している。 ②あわせて、事業所数・従業者数も減少しており、昼間人口の減少に繋がっている。 ③中心商店街は、買回り品を中心に高岡市全域を週末商圏としているが、そのウェートは年々低下している。 ④ウイング・ウイング高岡は、1 日あたり約 3,400 人が来館している。来館者は、それまで中心市街地への来街機会が減少してきていた10代から30代の若年層がかなりの割合を占めており、来街機会の創出に大きく寄与している。御旅屋セリオをはじめ中心商店街の主要顧客層が比較的高齢者であり、両者の顧客層が異なることから、来街者アンケートからもウイング・ウイング高岡来館者の中心商店街（4 商店街）への回遊率は約 20%程度となっているが、歩行者通行量を見る限り、回遊性は高まっていると判断できる。 ⑤小売業の年間販売額が減少するなど中心商店街における賑わいが薄らいでいくなか、商業者は、経費削減や在庫圧縮に努めながら営業の維持存続に向けた努力している。一方で、営業期間の比較的短い店舗については、品揃えの充実や仕入先の開拓など事業意欲の高い商業者が多い。 ⑥市民意識調査では、中心市街地における商業環境、商業景観が悪化しているとする指摘が特に多く、商業機能の改善、回復が強く求められている。
8．まちづくり会社の役割	①まちづくり会社を担う末広開発㈱は、主にイベントを中心とした商店街の賑わいづくりに寄与している。主催事業と協賛事業をあわせると、ほぼ毎週、中心市街地における大小さまざまな

	イベントを開催（参加）している。 ②その他、ミニ拠点の管理運営など、まちの顔づくりに向けた活動をはじめ、空き店舗における入居希望者と大家とのマッチング、ホームページ等による情報発信、各種共同販促事業の開催など、幅広い活動を行っている。 ③このような活動実績により、まちづくり会社に対する中心商店街の信頼は厚く、まちづくり会社が主体となった多面的なまちづくり活動を一層推進することが必要である。 ④中心市街地でのイベント開催は、事業手法を工夫することにより回遊性が向上することを概ね実証している。
９．公共交通機関の利便性の増進	①公共交通の利用者は、万葉線を除き、減少傾向にあるが、ＪＲ高岡駅周辺は現在も１日あたり 10,000 人を超える人の交通・交流結節拠点として重要な役割を担っている。 ②平成 26 年度の北陸新幹線の金沢駅までの開業に伴い、現在の高岡駅は生活者のための駅及び交通結節点としての機能が特化される。

（２）課題の整理

①歴史・文化資産の保存と活用

高岡が開町以来、長い歴史の中で守り育んできた瑞龍寺、山町筋、前田利長墓所、高岡古城公園、金屋町といった貴重な歴史・文化資産の保存と観光資源としての機能充実を図るとともに、これらをトータル的に活用し、市民はもとより観光客が観光地を回遊するような取り組みが必要である。

また、全国で５件しかない重要有形・無形民俗文化財を併せ持った高岡御車山祭の魅力を１年を通して発信する高岡御車山展示館の建設など、観光地の魅力向上の核となる施設の整備を図るとともに、国の認定を受けた高岡市歴史的風致維持向上計画と一体となった歴史都市高岡を創出する取り組みが必要である。

②住環境の整備によるまちなか居住の推進

中心市街地は、コミュニティバス、万葉線などの公共交通機関やウイング・ウイング高岡、子育て支援センター等の都市福利施設が集積しているほか、高岡古城公園という大きな憩いの場所があり、便利で快適な日常生活を営めることができる地域である。

こうした既存インフラを生かし、少子・高齢化社会の進展に対応した過度に車に依存しない都市を実現していくために、徒歩・自転車・公共交通機関を利用して容易に買い物や医療・福祉などの生活支援サービスが享受できる居住環境の向上や民間活力を活用して共同住宅等の整備促進を通じたまちなか居住の推進を図っていく必要がある。

また、中心市街地では、町家が密集していることや道路が狭隘なことなどから、中心市街地の土地利用を見直し、密集地域の防災性の確保に取り組むとともに、街区単

位の小規模開発による商業・文化・居住基盤の整備を進めるなど、安全・安心で居心地の良い居住環境の整備を図る必要がある。

③中心商店街の賑わいの創出

中心商店街を大勢の来街者が訪れ、賑わいを取り戻すことが喫緊の課題である。

このため、まちづくり会社や中心市街地活性化協議会が中心となって、魅力ある店舗の誘致や開業者（出店希望者）と空き店舗大家のマッチングを誘導しつつ、開業支援施策を積極的に展開し空き店舗の解消を図り、商業機能および業務機能を回復させていく必要がある。

また、ウイング・ウイング高岡や御旅屋セリオなどまちなかの賑わい拠点施設の特長を活かしながら、中心商店街が主体となり積極的な参画を得て、まちなかを歩いて楽しめる仕掛けづくりを構築し、商店街の顔づくりのための事業に取り組むほか、地場産業（農業も含む）と連携するなど、高岡固有の地域資源を活用した取り組みを積極的に推進し、中心商店街の賑わい創出と魅力向上に努めていく必要がある。

さらには、万葉線等の公共交通の利便性の維持・向上を図るほか、アクセス向上のための道路・歩道整備などの交通基盤整備に取り組む必要がある。

〔５〕計画の基本方針

１期計画の成果から、本市中心市街地の現状分析と課題を踏まえて、以下のとおりスローガン及び基本方針を定める。

（１）スローガン

高岡の開町以来 400 年の歴史・文化資産を生かし、現代的な都市機能に満たされた居心地の良さと賑わいを創出し、それらが調和よく織り合わさった高岡の地域特性を活かしたまちづくりに取り組むことで、誰もが憧れを持って住みたいまち、行きたいまちを実感できる光り輝くまちなかを創生するため、市民が共感できるスローガンを次のとおり定める。

【スローガン】　光り輝くまちなかの創生
～　４００年の資産を守り、育み、繋ぐ　～

（２）基本方針

①世界に誇れる歴史・文化を生かしたまちづくり

中心市街地には開町以来、長い歴史の中で守り育んできた瑞龍寺、山町筋、前田利長墓所、高岡古城公園、金屋町といった貴重な歴史・文化資産が保存・継承されている。

富山県内において、都市性と歴史性の双方を内包する都市は他にはないことから、国の認定を受けた高岡市歴史的風致維持向上計画と一体となり、本市の優れた歴史・文化資産の保存と調査に努めるとともに、核となる施設の整備や文化財周辺の景観整備、市民意識の醸成、観光資源としての活用を図り、観光客がまちなかを回遊する仕

組みを構築する。

②便利で住みよく快適なまちづくり

中心市街地には、都市福利施設や公共交通網が集まっており、利便性の高いまちが形成されている。また、高岡御車山祭をはじめとした数多くの伝統行事が残されており、それらを保存・継承していくことが、地域アイデンティティを確立していくために有効である。一方で、早期にまちが形成され、非戦災都市であるが故のマイナス面（例：老朽化した建築物や狭隘な道路など）もあることも認識されており、それが、郊外への転出要因となっている。

そのためにも、マイナス要因を改善するとともに、プラス要因の更なる充実により、まちなかの快適な居住環境の充実を推進する。

③活力と賑わいあふれるまちづくり

消費者の購買行動の変遷により商業活動の中心は、郊外の大型店へと移り、また、車社会やＩＴの進展とあいまって、事業所等の転出も多く、従来の呉西地域の拠点都市としての位置づけは薄くなっている。

平成 26 年度に、北陸新幹線が金沢まで開業することを契機に、飛越能 86 万人の玄関口として、魅力あふれるまちづくりを進めることが重要である。

商業環境においても高岡市の中心市街地でしか体験できない独自性の高いまちづくりに取り組むことが必要である。

そのためには、万葉線など公共交通の利便性向上を図りつつ、豊富な地域資源を活用することにより、商業者・商店街の魅力や活力を引き出すとともに、来街者が多く訪れ、まちなかを楽しく歩く仕組みづくりに取り組み、まちなかに賑わいを創出する。

現状分析・課題から導き出される基本方針の体系

≪ 現状分析 ≫		≪ 課題 ≫	≪ 基本方針 ≫
高岡市及び中心市街地の位置づけ	・富山市、金沢市は日常的生活圏内 ・呉西の交通結節点・中心市街地の中心性希薄化 ・高齢化の著しい進展や若年層、子育て世帯の流出 ・全産業の事業所数減少	**歴史・文化資産の保存と活用** ・歴史・文化資産をトータル的に活用し観光客が中心市街地や観光地を回遊する仕組みづくりの必要性 ・観光地の魅力向上に繋がる核となる施設の整備とともに、高岡市歴史的風致維持向上計画と一体となった歴史都市高岡を創出する取り組みの必要	世界に誇れる歴史・文化を生かしたまちづくり
歴史・文化資産の活用	・指定文化財等が多数集積 ・歴史・文化資産を生かしたまちづくりへの期待度 ・観光地間の回遊性が弱く、滞在時間が短い		
市街地の整備改善	・域内で４つの再開発事業により拠点整備 ・防災街区等の施設の老朽化とリニューアルの困難さ	**住環境の整備によるまちなか居住の推進** ・子育て世帯や高齢者に考慮した安全で快適なまちなか居住を推進するため、公共交通機関や歩行空間の整備や各種市の開催などの買物機能の充実の必要性 ・密集した町家や狭隘な道路の整備に向けた土地利用の見直しや、安全で安心な居住地を創出する必要性	便利で住みよく快適なまちづくり
都市福利施設の向上	・ウイング・ウイング高岡や子育て支援センターなど、比較的都市福利施設が充足しており一定水準のサービスは提供		
まちなか居住の推進	・空き地・空き家が増加、人口減少の進展 ・まちなか居住者の高い満足度 ・空き地・空き家の点在による、宅地開発の阻害		
高齢化社会への対応	・高齢化に拍車がかかることへの懸念 ・高齢者にとって安全で暮らしやすいまちなかへの期待		
中心商店街の活性化	・商業活動を表す指標はそのほとんどがマイナス ・中心商店街の拠点施設来街者のまちなかへの回遊性の期待	**中心商店街の賑わいの創出** ・まちづくり会社が関わり、商店街の魅力が向上する店舗誘致による空き店舗の解消を図る取り組みの必要 ・商店街などと連携を進め、地域資源を活かしたイベント開催や歩いて楽しめるまちづくりなどの創意工夫の必要 ・事業所の誘致を進め、昼間人口の増加を図る必要性	活力と賑わいあふれるまちづくり
まちづくり会社の役割	・賑わい創出事業の開催や開業促進など、中心市街地の活性化への幅広い活動の実施 ・より一層の活動促進と創意工夫		
公共交通機関の利便性増進	・万葉線を除けば総じて減少傾向 ・北陸新幹線開業後、高岡駅は生活者のための機能に特化		